

**JOHN DEERE**  
**AG & TURF DIVISION**

**Walk Greens Mower**  
**180SL, 220SL and 260SL**

OMTCU29331 D2

オペレーターズ・マニュアル



**JOHN DEERE**

輸出  
アメリカで印刷されている



\* D C C Y \*



\* O M T C U 2 9 9 3 1 \*

## はじめに

ジョン・ディアの製品をお買い上げ頂きありがとうございます。  
とうございます。

弊社の製品をご購入いただきましたことに感謝の意を表するとともに、この機械を長年にわたって安全にご愛用いただけますようお願いしております。

### このオペレーターズ・マニュアルの使い方

このマニュアルは、機械の主要パーツの一部です。この機械をお売りになる場合には必ずマニュアルも機械と一緒に次の持ち主にお渡し下さい。

オペレーターズ・マニュアルをお読みいただくことで、人身事故や機械の破損を回避できるようになります。このマニュアルに記載されている情報は、本機の最も安全で効果的な使用方法をオペレータに提供するものです。またお客様に本機の安全で正確な操作方法を学んでいただくことにより、本機を操作する可能性のある他の人員の訓練も実施できるようになります。

付属装置をお持ちの場合、その付属装置を安全に正しく操作するために、本機のオペレーターズ・マニュアルとともに付属装置のオペレーターズ・マニュアルに記載の安全と操作に関する情報を併せてご参照下さい。

本マニュアルおよび機械に付いている安全マークは、他の言語版でお求めいただくことも可能です。(認定代理店にお申し付け下さい。)

オペレーターズ・マニュアルの各セクションは、全安全メッセージを把握して各制御方法を習得し、本機を安全に操作できるよう、特別な順序で編纂されています。また、特定の操作や整備点検に関する質問への回答も、このマニュアルにより参照できます。巻末にある索引は、必要な情報を素早く検索するのに役立ちます。

本書に掲載されている機械はお使いの機械と幾分異なっている場合がありますが、使用説明をご理解いただく上では支障のない範囲となっています。

このマニュアルの中での右と左は、機械の前進方向を向いて立った状態での方向です。破線(-----)で示されている箇所は、参照対象の部分が何かの陰になっていて見えないことを表します。

本機器をお客様にお届けする前にはジョン・ディア代理店にて出荷前点検が実施されており、お客様の機器が最良の状態であることが確認されています。

### 特記事項

このマニュアルには、起こり得る安全関連の懸念、機械の破損、ならびに有益な操作/整備点検の情報に喚起を促すための特記事項が含まれています。怪我や機械の損傷を避けるため、全情報を注意してお読み下さい。



**注意：**ケガの防止に留意して下さい。このマークと見出しは、当該手順や危険性が無視された場合に起こる、オペレータならびに機械周辺の人への危険や死亡の可能性を示しています。

**重要：**破損しないよう注意してください。この見出しは、機械が損傷する可能性のある行為や条件について述べたものです。

**注記：**本機の操作や整備点検の際に役立つ一般情報は、本マニュアル全体を通じて記載されています。

# 製品の識別

識別番号を記録してください。

ウォーク・グリーン・モウワー

180SL、220SLおよび 260SL PIN (010001- )

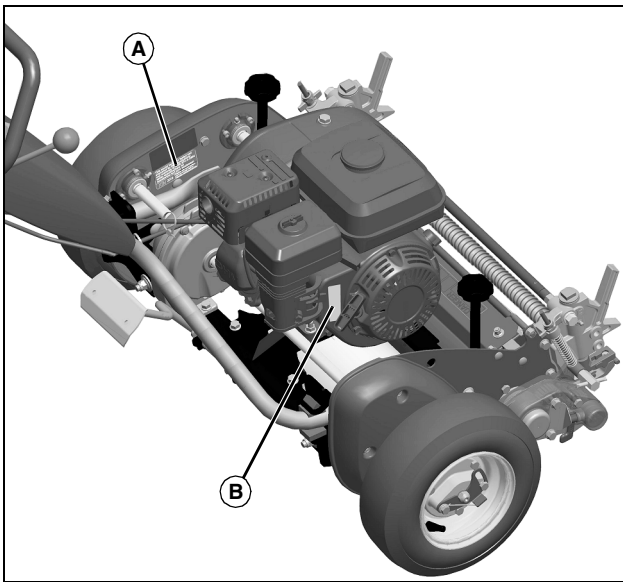
認定整備点検センターに整備点検についての情報をお問い合わせいただく場合には、必ず製品のモデルとシリアル番号が必要になります。

機械の識別番号、エンジンのシリアル番号等を確認し、下記に記入しておいて下さい。

製品購入年月日：

-----  
代理店名：

-----  
代理店電話番号：



MX46471

製品の識別番号 (A)：

-----  
エンジンのシリアル番号 (B)：

# 目次

---

---

安全ラベル .....	1
安全 .....	3
操作制御機能 .....	7
操作 .....	8
操作 .....	13
交換用パーツ .....	22
整備点検周期 .....	23
整備点検 - 潤滑油 .....	25
整備点検 - エンジン .....	30
整備点検 .....	37
整備点検 .....	40
故障診断 .....	46
保管 .....	48
仕様 .....	50
索引 .....	53

本マニュアル内の情報、イラスト、仕様は、全て発行時点での最新情報に基づくものです。本社はこれらの記載情報に予告なしに修正を加える権利を常時留保しています。

COPYRIGHT © 2012

Deere & Co.

John Deere Ag & Turf Division All rights reserved Previous Editions

COPYRIGHT © 2010

# 安全ラベル

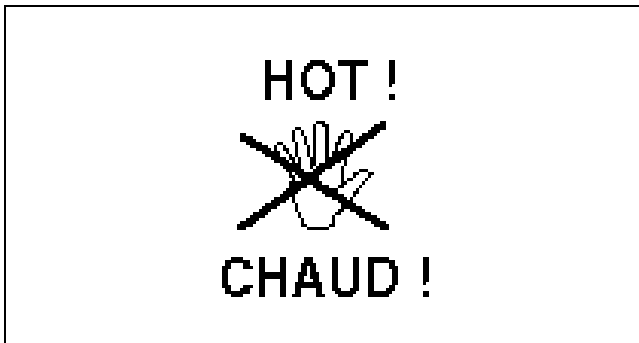


## 絵図式安全マーク

本機には、数個所の重要部位に、潜在的な危険を示すための安全マークが貼付されています。三角形で囲まれた警告を示すイラストにより、危険性が識別できます。この脇にあるイラストは、人身事故の回避方法を示すものです。これらの安全マークおよび本機上の貼付個所と簡単な添付説明は、この「安全」セクションに示されています。

この取扱説明書には再生されていない、サプライヤを源とする追加の安全情報が、部品やコンポーネントに含まれているかもしれません。

## 警告



- ・ 熱面

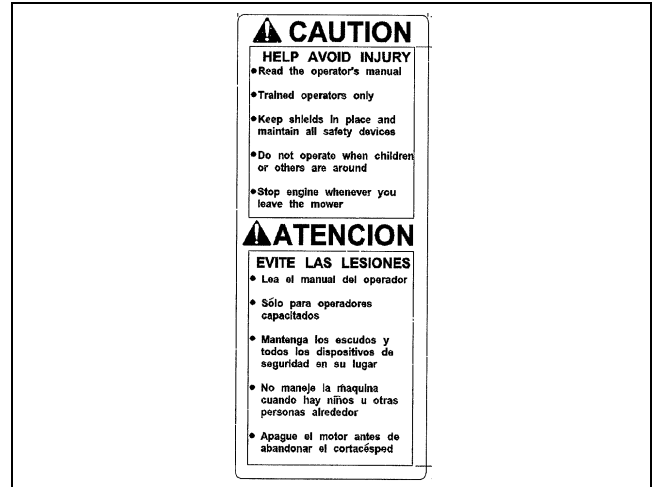
## 警告



MT3366

- ・ シールドを所定の位置に取り付けずにマシンを運転しないでください。

## 注意



MT7235

ケガをしないよう注意してください。

- ・ オペレーターズ・マニュアルを読んで下さい。
- ・ 訓練を受けたオペレータ専用です。
- ・ シールドを適切な位置に維持し、すべての安全装置を保持してください。
- ・ 周辺に子供や他の人がいる場合は、操作しないでください。
- ・ 芝刈り機から離れる場合は、必ずエンジンを止めてください。

## 警告 TCU26800

スパーク・アレスタ



TCU26800

本機器の作動中にはスパークが発生することがあり、乾いた草木の周辺では発火に至る恐れがあります。スパーク・アレスタが必要となる場合があります。防火要件に関する法規制について地元の消防庁に問い合わせてください。

# 安全ラベル

## 危険 MT6517



MT6517

・回転中のブレードにより負傷しないよう、リールには近づかないで下さい。

・整備点検、潤滑、カッティング・ユニットの取り外しを行う場合は、必ず事前にエンジンを止めて下さい。

## 証明書

本製品は、ANSI B-71.4「業務用芝ケア機器の安全仕様」(Safety Specifications for Commercial Turf care Equipment) に準拠しています。

## 排気ガス規制システム証明書ラベル

**注記：排気ガス規制装置やコンポーネントへの認定されていない人員による改造は、厳しい罰金または処罰の対象となります。排気ガス規制装置およびコンポーネントの調整を実行できるのは、EPA および/または CARB 認定のサービス・センターに限定されています。排気ガス規制装置およびコンポーネントに関するお問い合わせについては、お近くのジョン・ディア販売店までご連絡下さい。**

排気ガス・ラベルが貼付されている場合、これは、該当のエンジンが米国環境保護庁（EPA）およびカリフォルニア大気資源委員会（CARB）の両方またはいずれか一方から認定されていることを意味します。

この排気ガス保証は、EPA および/または CARB からの認定を受け、米国またはカナダのオフロード用移動装置で使用される、ジョン・ディア市販のエンジンに対してのみ適用されるものです。

## 排気ガス適合期間

排気ガス規制システム証明書あるいはエア・インデックス・ラベルにお使いのエンジンの排気ガス適合カテゴリが記載されている場合、これは、EPA および CARB の排気ガス要件（またはいずれか一方）を確実に満たすエンジン作動時間数を表します。以下の表に、証明書ラベルに記載のカテゴリに対応するエンジンの適合期間を時間数で示します。

認定機関	カテゴリ	時間数
EPA	C	125
EPA	B	250
EPA	A	500
CARB	適度	125
CARB	中間	250
CARB	延長	500

# 安全

## 運転前にはオペレーターのトレーニングが必要です

- ・オペレーターズ・マニュアルと他のトレーニング資料を読んで下さい。オペレータまたはメカニックが英語を読めない場合、この資料の説明を行う義務は所有者にあります。このマニュアルは他の言語版でも入手可能です。
- ・機器の安全な操作方法、オペレータ・コントロール、安全記号を確実に把握して下さい。
- ・オペレータとメカニックは全員訓練を受けているものとします。機械の所有者が使用する人に訓練を受けさせる義務を負います。
- ・子供、または訓練を受けていない者に機器を操作させたり、整備させてはなりません。現地法の規制によりオペレータの年齢が制限される場合があります。
- ・所有者。
- ・機械の操作は、障害物のない広々とした場所で、本機の操作に熟知した経験者の監視の下で行って下さい。

## 準備

- ・地形を正しく判断して、作業を適切にかつ安全に実行するにはどのようなアクセサリと付属装置が必要かを決めて下さい。メーカーが承認したアクセサリと付属装置のみを使用して下さい。
- ・ヘルメット、安全メガネ、聴力保護用具を含む適切な衣服を着用して下さい。長髪、緩めの衣服、装飾品は可動部品に絡まる可能性があります。
- ・機器を使用する場所を点検し、機械により弾き飛ばされる可能性のある物体
- ・ガソリンや他の燃料を扱う際には特別の注意を払って下さい。これらは引火性が強く、燃料蒸発物には起爆性があります。
  - a. 承認された容器のみを使用して下さい。
  - b. エンジンの作動中には、絶対にガス用キャップを外したり燃料の補給を行ったりしてはいけません。喫煙しないで下さい。
  - c. 機械への燃料補給
- ・オペレータ用のプレゼンス・コントロール、安全スイッチ、シールドが取り付けられ、正しく機能していることを点検して下さい。正しく機能していない限り、操作しないで下さい。

## 安全な操作

- ・一酸化炭素などの危険な排気ガスが溜まるおそれのある閉鎖された場所では絶対にエンジンを作動させないで下さい。

・操作は、十分に明るい条件の下で、地表の穴や隠れた危険性を回避しつつ行って下さい。

・まず、駆動装置がみなニュートラルの位置にあること、パーキング・ブレーキがかかっていることを確認し、それからエンジンをスタートさせます。運転席に着座した状態のみからエンジンを始動させて下さい。

・通行人コントロール装置を使用中、特にバックアップする際は、足元に注意してください。走らずに、歩いてください。濡れた草の上では決して運転しないでください。足場が小さいとスリップの原因になります。

・傾斜地では速度を落とし、特に注意を払って下さい。傾斜地では必ず推奨されている方向に走行して下さい。本機では、斜面を横に刈り取りできますが、上下に移動しないでください。芝の条件が機械の安定性に影響することがあります。崖の近くで作業する時は十分に注意して下さい。

・傾斜地で回転するときや方向を変える時には、速度を落とし慎重に操作します。刈り取りをしていない場合は、ブレードを停止してください。

・草以外の表面を横切る時、およびモウワーを草を刈った場所から、または草を刈った場所へ、モウワーを移動のために傾ける必要がある場合は、ブレードを停止してください。

・ガードが所定の位置にない場合は、絶対に操作しないで下さい。すべてのインターロックが取り付けられ、適正に調整され、正しく機能していることを確認して下さい。

・エンジン調速機の設定変更や超過速度でのエンジン稼働は行わないで下さい。過度の速度で操作すると、人身傷害に至る危険性が高くなります。

・草捕集器を空にする、詰まった物を取り除くことを含め理由の如何にかかわらず運転席を離れる前に、水平な地面に停止し、駆動装置を解除し、駐車ブレーキを掛けてエンジンを止めます。

・何かにつぶかった後や異常な振動が起きた場合には、装置と停止して点検します。作業を再開する前に必要な調整を行って下さい。

・カッティング・ユニットには手足を近づけないで下さい。

・後進する前には後方と下方をチェックし、安全を確認して下さい。

・酒気を帯びた状態、または薬物（眠気を催す服用薬を含め）の影響下にある状態では、機械を操作してはなりません。

・トレーラやトラックへの本機の積み込み／積み下ろしの際は十分に注意して下さい。

・見通しの悪い曲がり角、植木の茂み、樹木、その他の視界を遮る物体の近くを走行する場合は十分注意して下さい。

・操作を始める前に、必ず機械を点検します。金具が確実に締まっているかを確認し、部品に破損、欠損、極度の摩耗がある場合は、修理や交換を行います。ガードやシール

# 安全

ドが良好な状態で所定の位置に固定されているかを確認します。必要な調整はすべて、作業を開始する前に済ませます。

- ・ エンジンが回転中は、モウラーを持ち上げたり、運ばないでください。
- ・ 作業区域内に誰かが入ってきた場合には機械を停止します。
- ・ 機械のメーカーが承認するアクセサリと付属装置のみを使用して下さい。
- ・ 決してラジオや音楽をヘッドホンで聴きながら作業を行わないで下さい。安全に整備や操作を行うには、作業に専念する必要があります。

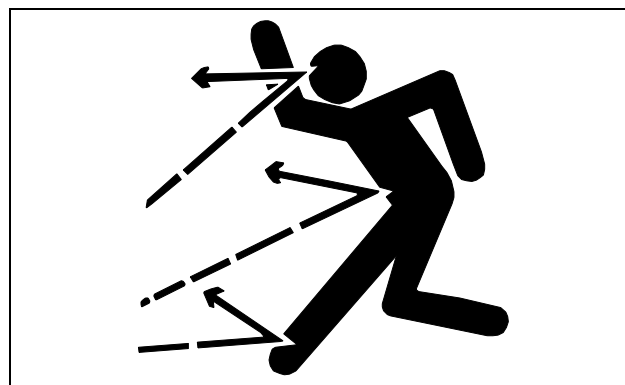
## スパーク・アレスタの使用

カリフォルニア州の California Public Resources Code, section 4442.5 (カリフォルニア州公的資源保護条例第 4442 条第 5 項) には以下の規定があります。

いかなる者も、他の者に対し、第 4442 条または 4443 条の支配下にあるものの Health and Safety Code (健康安全条例) 第 13005 条に服さない内燃エンジンを売却するか売却を申し出ることまたは賃貸借することを行ってはならない。但し、森林地、低木地、草生地で内燃エンジンを使用または操作することが、当該エンジンに対し第 4442 条に従いスパーク・アレスタが装備されていて正常に稼動するよう保守整備されている場合であるかもしくは第 4443 条に準ずる火災予防のための設計製造、装備、保守整備がなされたエンジンである場合を除き、第 4442 条または 4443 条への違反であることが、売却時点または賃貸借契約締結の時点において購入者または受寄者に書面にて通知される場合にはこの限りではない。(Cal. Pub. Res. Code 4442.5 より引用)

他の州または管轄地域にも同様の法律が存在する場合があります。機械のスパーク・アレスタは、正規代理店でお求めいただける場合もあります。装着されたスパーク・アレスタには、良好な状態に維持するため使用者による適切な整備点検が必要となります。

## 刈り作業区域の点検

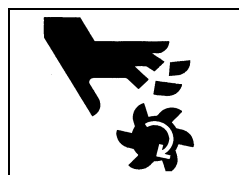


MIF

- ・ 作業予定区域に弾き飛ばされそうな障害物がある場合は、作業前に除去します。刈り区域には人やペットを近づけないで下さい。
- ・ 低く垂れ下がった枝木や同様の障害物は、オペレータを傷つけたり刈り作業の邪魔になったりすることがあります。低い枝のように障害となり得る物体は、刈り作業を行う前に点検して剪定・除去などの処置を講じて下さい。
- ・ 刈り作業を行う区域を点検します。安全な刈り作業のパターンを確立して下さい。トラクションや安定性に問題がある場合には刈り作業を行わないで下さい。

## 安全な駐車

1. 機械は水平な場所に駐車します。斜面での駐車は避けて下さい。
2. カutting・ユニットを取り外します。
3. パーキング・ブレーキをロックします。
4. エンジンを止めます。
5. オペレータ・ステーションを離れる前に、エンジンと全ての可動部分が停止するのを必ず待って下さい。
6. 燃料シャットオフ・バルブ (装着されている場合) を閉じます。
7. 機械を整備点検する前に、スパーク・プラグのワイヤを取り外します (ガソリンエンジンの場合)。



## ブレード取り扱い中の怪我防止

・ 回転中のカutting・シリンダにより手足を切断されるおそれがあると同時に、シリンダに物体を近づけると強く跳ね返される危険があります。安全手順を遵守することを怠ると、重傷や死亡に至るおそれがあります。



・ エンジン作動中は、回転中のカッティング・シリンダに手、足、衣類を近づけないで下さい。

・ 常に注意を怠らず、慎重に機械を運転してください。作業中、人や子供が不意に刈り区域に入ってくるため、留意しつつ作業を行なって下さい。

・ 芝を刈っていない時はカッティング・シリンダを停止して下さい。

・ 草捕集器を空にする場合も含めて、何かの理由でオペレータ・ステーションを離れる時は必ず機械を安全に駐車して下さい。

・ リール部分を手で回転させる必要がある場合は必ず作業用グローブをはめて下さい。

・ リール研磨用のコンパウンドを塗布する際には柄の長いブラシを使用して下さい。

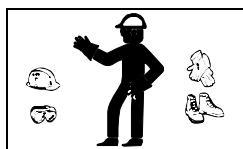
## 回転中のブレードは危険ですー子供を危険から保護し、事故を防ぐ

### 子供を危険から保護する

・ オペレータが子供の存在に注意を払っていない場合は、悲惨な事故が起きる場合があります。子供は芝刈り機器や芝刈りの作業に対して関心を持つものです。子供の存在や出現を常に予期して操作を行って下さい。子供は、つい今しがた居たところにはじっとしていないものと考えて下さい。

・ 芝刈り機の操作中は、子供は屋内に入れて刈り区域に近づけないようにし、オペレータ以外の責任ある大人の監視下において下さい。

・ 子供が作業領域に入っている場合は、用心のため芝刈り機をオフにしてください。回転中のブレードの危険性やオペレータが子供の存在に気付かないことは、彼らには理解できていません。



### 適切な作業衣の着用

・ 作業時には安全ゴーグルまたはサイドシールド付きの安全メガネを必ず着用して下さい。

・ 衣服はだぶつきのない体に合ったものを選び、作業に適した安全装具を装着して下さい。

・ 刈り作業中では必ず作業靴と長ズボンを着用して下さい。裸足やサンダル履きで機器の操作を行ってはいけません。

・ 耳栓などの保護用具を適宜使用して下さい。騒音により聴力喪失や難聴が起こることがあります。



### メンテナンスおよび保管

・ 一酸化炭素などの危険な排気ガスが溜まるおそれのある閉鎖された場所では絶対に機械を作動させないで下さい。

・ 駆動装置の接続を解除し、パーキング・ブレーキを入れ、エンジンを止め、キーを抜き取るかまたはスパーク・プラグの接続を外します (ガソリン・エンジンの場合)。調整、手入れ (クリーニング)、修理を始める前に、機械の動きがすべて止まるのを待ちます。

・ 火災を防ぐため、カッティング・ユニット、駆動装置、マフラー、エンジンの芝や切りくずを取り除きます。オイルや燃料をこぼした場合は拭き取って下さい。

・ 保管する前にエンジンを冷まします。火気の周辺には保管しないで下さい。

・ 保管時および輸送中は、燃料をオフにしてください。火気周辺に燃料を保管したり、室内で燃料を抜いたりしないで下さい。

・ 機械を平らな場所に駐車します。訓練を受けていない人員には決して機械の整備点検をさせないでください。整備点検の手順は、作業を始める前に把握していなければなりません。

・ 必要に応じて、ジャッキ・スタンドを使用してコンポーネントを支えてください。

・ 注意して、蓄積されたエネルギーとともにコンポーネントから圧力を解放します。

・ カッティング・ユニットを点検する場合は、注意してください。カッティング・ユニットを整備点検する場合は、手袋を着用し、注意しながら行ってください。

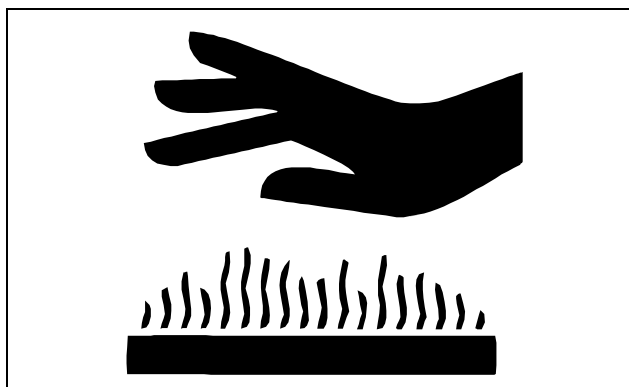
・ ブレードだけを交換してください。決して溶接を加えたり真直ぐにしようとしたりせず、交換して下さい。

・ 動いている部分には手、足、衣服、装飾品や長髪を近づけないで下さい。可能な限り、エンジンを作動させたままでの調整は行わないで下さい。

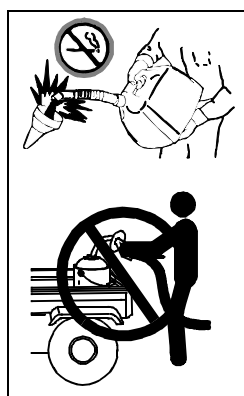
・ 部品はすべて正しく作動する状態に、金具もすべて適正に締められた状態に保ちます。摩耗、破損している部品はすべて交換します。

・ 機械の調整中に、動いているブレードと機械の固定部品の間指を挟まれないように注意して下さい。

## 火災の防止



- ・ 機械操作の前後に、また特に乾燥した状態での芝刈りやマルチング作業後には、エンジン・コンパートメントとマフラ近辺に付着した草や断片を取り除いて下さい。
- ・ 草捕集器は保管する前に完全に空にして下さい。
- ・ 機械を保管または輸送するときは、機械に燃料シャットオフが付いている場合、必ず燃料をオフにして下さい。
- ・ 温水器や火炉などの裸火や点火源の近くには絶対に機械を保管しないで下さい。
- ・ 燃料管、燃料タンク、燃料タンク・キャップ、取り付け具を、定期的にひび割れと漏れについて点検して下さい。必要に応じて交換します。



## 燃料の安全な取り扱い

人身事故や物的損害を回避するため、燃料の取り扱いには細心の注意を払って下さい。燃料は非常に引火性が強く、燃料蒸発には起爆性があります。

- ・ タバコ、葉巻、パイプ・タバコおよびその他の引火の原因となるものは全て消して下さい。

- ・ 承認された燃料容器のみを使用して下さい。アメリカ保険業者安全規格 (U.L.) (ASTM) 漏斗を使用する場合は、必ずスクリーンやフィルタが付いていないプラスチック製のものを使用して下さい。

・ エンジンの作動中には、絶対に燃料タンクのキャップを外したり燃料の補給を行ったりしてはいけません。燃料を補給する前に、エンジンの温度が下がるのを待って下さい。

- ・ 機械への燃料補給機械を屋外に出し、適切な換気措置をとって下さい。

- ・ 燃料をこぼした場合は直ちに拭き取って下さい。燃料が衣服にこぼれた場合には直ちに替えて下さい。機械の近

くに燃料がこぼれた場合は、エンジンを始動させようとせずに漏れのある個所から機械を移動させて下さい。燃料蒸気が放散しきるまで、点火源を発生させないように十分注意して下さい。

- ・ 機器および燃料容器は、温水器や他の器具の裸火、火花、パイロット・ライトがある空間には絶対に保管しないで下さい。

- ・ 静電気による火災や爆発が起きないようにして下さい。燃料容器が接地されていない場合、静電気放電により燃料蒸気に点火する可能性があります。

- ・ プラスチック・ライナーが付いた車両内部、荷台、トレーラ上では、絶対に容器を充填しないで下さい。燃料補給の前に、必ず容器を車両から離れた地面に置いて接地して下さい。

- ・ 燃料を動力源とする機器を荷台またはトレーラから移動し、地上で燃料を補充して下さい。これが実行できない場合、これらの機器への補給は、燃料補給ノズルからではなく携帯燃料容器を使用して行って下さい。

- ・ 燃料補充が完了するまで、ノズルを燃料タンクの縁部または容器の開口部と常時接触させておいて下さい。ノズルのロック／オープン装置は使用しないで下さい。

- ・ 燃料タンクを定量以上補充しないで下さい。燃料タンクにキャップを戻してしっかり締めます。

- ・ 作業後は燃料容器のキャップを確実に締めて下さい。

- ・ ガソリン・エンジンの場合、メタノールをガソリンと併用しないで下さい。メタノールは人体および環境に有害です。

## 廃棄物および化学薬品の取り扱い

使用済みのオイル、燃料、冷却液、ブレーキ液、バッテリー等の廃棄物は、環境を破壊し人体に害を及ぼします。

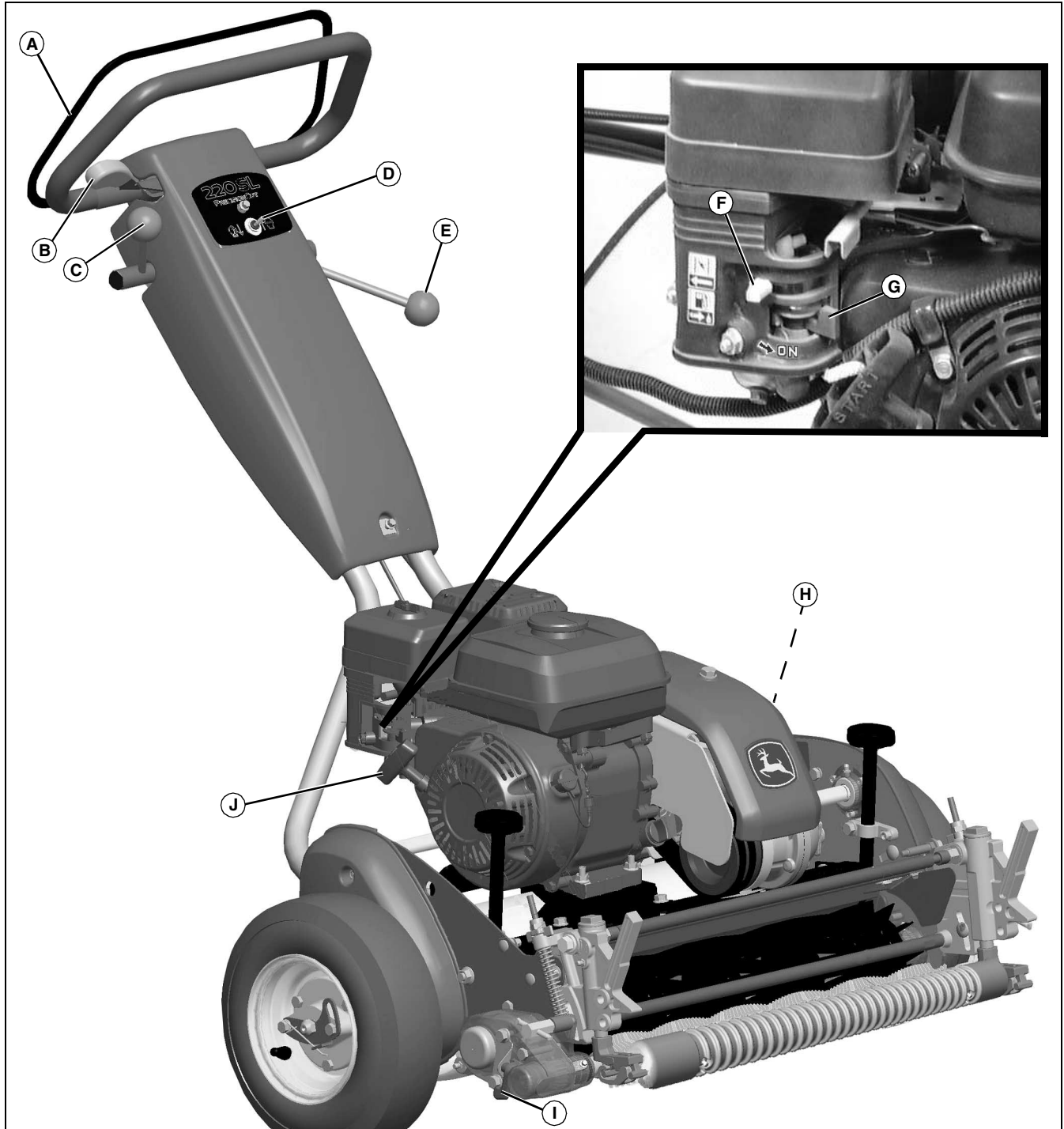
- ・ 飲料用のボトル、缶等には絶対に廃液を入れてはいけません。誰かが誤って飲んでしまう恐れがあります。

- ・ 廃棄物のリサイクル、廃棄方法については、お近くのリサイクリング・センターまたは認定代理店までお問い合わせ下さい。

- ・ 製品安全データ・シート (MSDS) に、化学薬品に関する次の特定の詳細が記載されています：人体に及ぼす危険性、安全のための手順、応急処置法。ご使用の機械で使用する化学薬品の販売業者が、当該製品の製品安全データ・シート (MSDS) を提供する責任を負っています。

# 操作制御機能

## 操作制御機器



MX46472, M86618

キー	説明
A	オペレータ・プレゼンス・ベール
B	スロットル・レバー
C	トラベル・クラッチ・レバー
D	「作動/停止」スイッチ
E	パーキング・ブレーキ・レバー

キー	説明
F	チョーク・レバー
G	燃料シャットオフ・バルブ
H	リール・クラッチ・ハンドル
I	GTC または回転式ブラシ・ハンドル
J	スタータ・ハンドル

# 操作

## 毎日の操作点検リスト

- 安全システムをテストします。
- タイヤの空気圧を点検します。
- 燃料レベルを点検します。
- エンジン・オイル・レベルを点検します。
- 作業の前と後に、エンジン・コンパートメントとマフラー近辺、およびカutting・ユニットの上に付着した草や断片を取り除きます。
- 吸気スクリーンを清掃します。
- 機械の下部で漏れがないかを点検します。

## プラスチック面と塗装面の損傷を防ぐ

・プラスチックのパーツは、拭く前にまず必ず水でゆすいで下さい。乾いた布で拭くと表面に傷がつく恐れがあります。

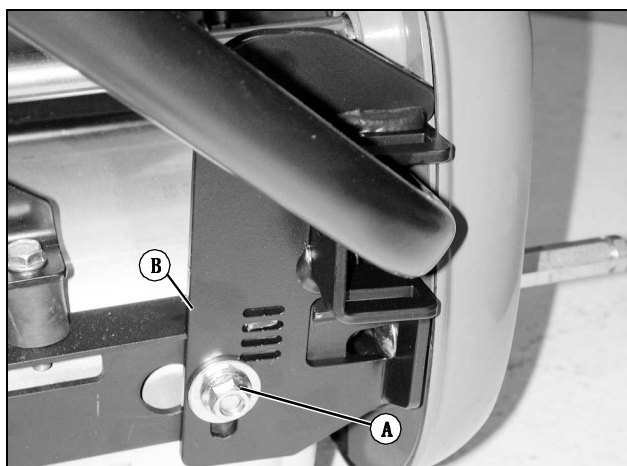
・防虫スプレーはプラスチックや塗装表面を変質させる可能性があります。防虫スプレーは機械周辺では使用しないで下さい。

・機械に燃料をこぼさないよう注意して下さい。燃料もプラスチックや塗装表面を変質させる恐れがあります。燃料をこぼした場合は直ちに拭き取って下さい。

・長時間日光に曝されるとフードの表面が損傷します。

## ハンドルバーの調整

**注記：ブラケット (B) が、斜めではなく上下方向に真っ直ぐになっていることを確かめます。**



MX12973

1. マシンの両側のナット (A) を緩めます。
2. 希望の位置にハンドルバーを置いて、ナット (A) を締め付けます。

## オペレータ・コントロールの使用法

### 「作動」スイッチの使用法

「作動 / 停止」切り替えスイッチを前方向へ押して、エンジンを作動させます。

・ 「作動 / 停止」切り替えスイッチを後ろ方向（オペレータ側）に引き、エンジンを停止させます。

### オペレータ・プレゼンス・ベールの使用法

オペレータ・プレゼンス・ベールが解除すると、全ての稼働部分が停止します。

ハンドルバーでオペレータ・プレゼンス・ベールを締め付けると、クラッチ・レバーを入れることができます。

### 走行クラッチ・レバーの使用法（前進）

1. ハンドルバー方向にオペレータ・プレゼンス・ベールを維持します
2. 走行クラッチ・レバーを前方に押して、ドライブ・クラッチを入れます。
3. ベールを解除して、走行を停止します。

### パーキング・ブレーキ・レバーの使用法

オペレータ・プレゼンス・ベールを解除して、ブレーキ・レバーを後ろに引いて芝刈り機の動作を停止します

### スロットル・レバーの使用法

スロットル・レバーを使用してエンジン速度と移動速度を調節します。

レバーを後ろに引いて（オペレータ側）エンジン速度を落とします。

移動速度、刈り高、および地形に応じて、スロットル・レバーを調節します。

### チョーク・レバーの使用法

チョーク・レバーを、チョーク位置のマークに向かって左に移動します。

### 燃料シャットオフバルブの使用法

この装置には、2か所に燃料シャット・オフ・バルブが装備されています。燃料シャット・オフ・バルブは、レバーを右にスライドすると開き、左にスライドすると閉じます。

「閉」（オフ）の位置にする場合：

- ・ エンジンの整備点検を行う場合。
- ・ 機械運搬時。
- ・ マシンの保管時

「開」（オン）位置にする場合：

- ・ エンジンへの燃料供給を適切に行うためには、燃料シャット・オフ・バルブは全開（オン）の位置になっていなければなりません。

# 操作

## グリーン軟化調整剤 (GTC) ハンドルの使用法

ハンドルを「作動」の（戻り止め）位置まで上方向に回します。

ハンドルを「停止」の（戻り止め）位置まで下方向に回します。

## リール・クラッチ・ハンドルの使用方法

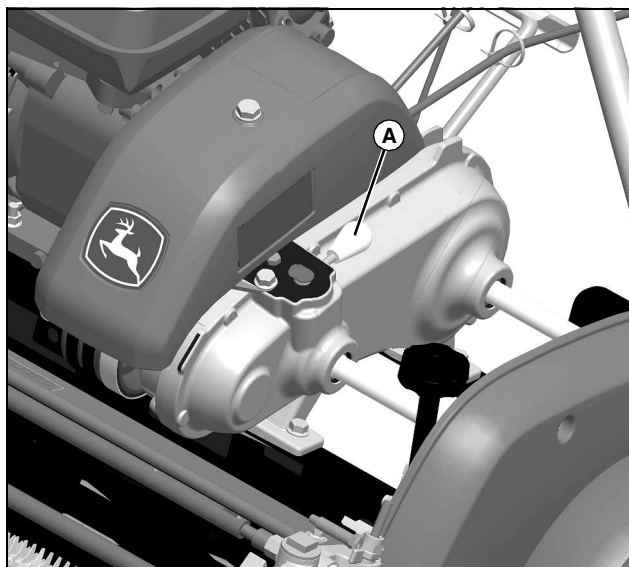
1. 機械を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。）



**注意：**ケガの防止に留意して下さい。クラッチ・ハンドルの回転が困難な場合があります。刃が鋭利なので、クラッチ・ハンドルを緩める場合にリールを素手でつかまないでください。

**注記：**クラッチ・ハンドルを無理やりに動かしたり、または蹴ったりしないでください。ハンドルを動かない場合は、マシンを振ってください。

**運搬の際にクラッチ・ハンドルは「停止」位置になければなりません。クラッチ・ハンドルを「刈り」位置に入れるのは、芝を刈る時だけです。芝刈り機が動いている時には、決してリール・クラッチを入れしないでください。**



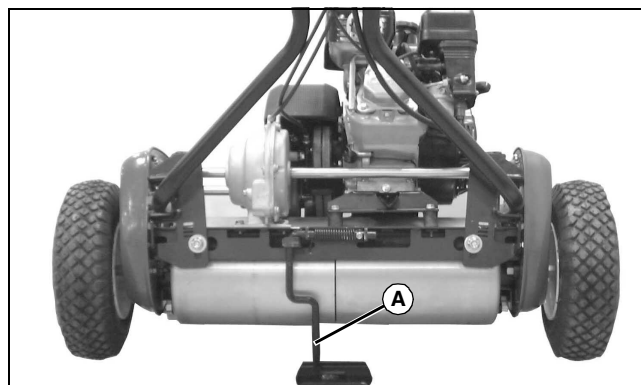
MX46473

・ クラッチ・ハンドル (A) は、「停止」位置の場合は後方に向き、「刈り」位置の場合は前方に向きます。

・ ハンドルは、「停止」位置と「刈り」位置間の180度の範囲でしか動きません。

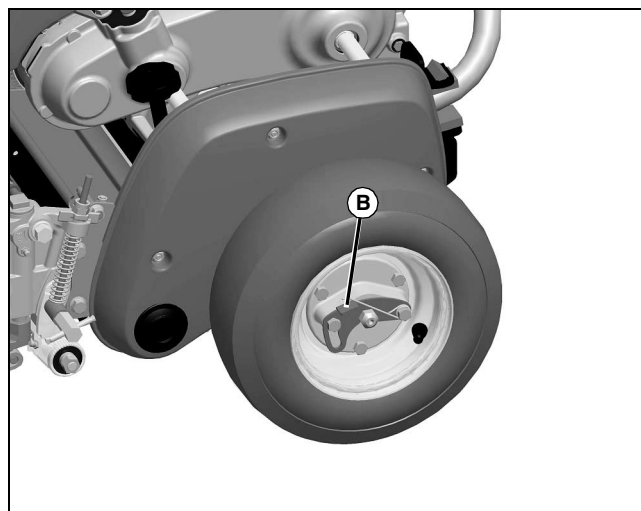
**注記：**リールを動かすことができるのは、走行クラッチ・レバーが入れられていて、しかもリール・クラッチ・ハンドルが「刈り」の位置になっている時のみです。

## 運搬用車輪の取り外し



MX6037

1. マシンをスタンドに置きます (A)。



MX46474

2. ラッチ (B) を解除して、車輪をシャフトからスライドして抜き取ります。反対側でも同様にします。

# 操作

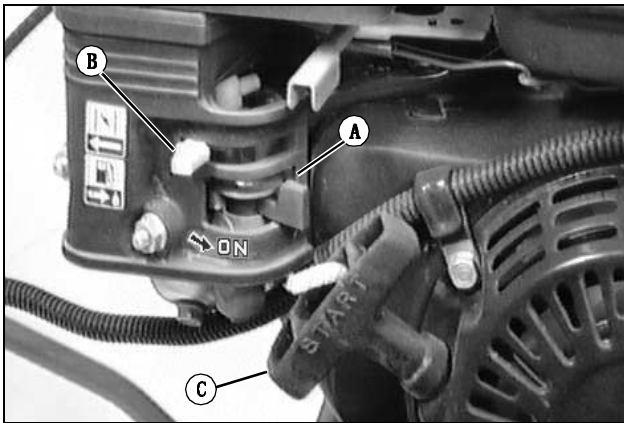
## エンジンの始動



注意：ケガの防止に留意して下さい。エンジンの排気ガスには一酸化炭素が含まれており、重篤な疾患や死亡の原因となることがあります。

- ・エンジンの稼働は機械を屋外に移動してから行なって下さい。
- ・換気設備が不十分な密閉された場所ではエンジンを作動させないで下さい。
- ・エンジンの排気用パイプに延長パイプを接続し、作業を行うエリアから排気ガスを排出します。
- ・新鮮な外気を作業エリアに取り入れて排気ガスを完全に排出して下さい。

1. パーキング・ブレーキ・レバーを入れます。
2. PTOスイッチを押して「オフ」位置にします。
3. 走行クラッチ・レバーを外します。
4. 「作動/停止」スイッチを押してその位置にします。
5. スロットル・レバーを「半開き」の位置にします。



M86618

6. 燃料シャットオフ・バルブ (A) を「オン」の位置にします。
  7. チョーク (B) を「閉」の位置にセットします。
  8. スタータ・ハンドル (C) を引きます。
- 注記：3回引いてもエンジンが始動しない場合には、チョークを「開」の位置に戻します。
9. エンジンが始動した後でチョークを「開」の位置にします。
  10. 作業を始める前に、エンジンを十分に暖めて下さい。

## エンジンを停止する

1. オペレーター・プレゼンス・ベールを解除します。

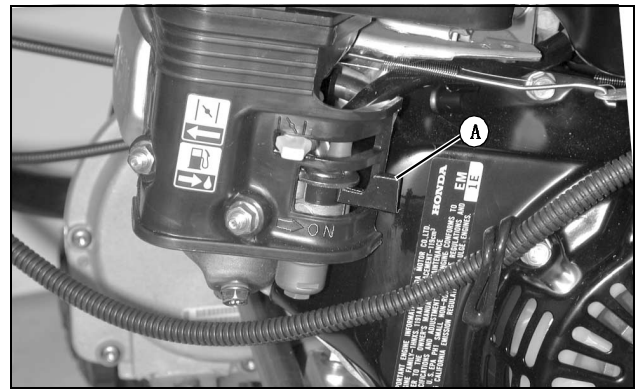
2. スロットル・レバーを後ろ（オペレーター側）までいっぱいに引き込みます。エンジンを2～4分間アイドル状態にし、エンジンを冷まします。

注記：芝刈り機を長期間使用せずにおく場合には、燃料シャットオフ・バルブ (A) を閉め、「作動/停止」スイッチを「作動」の位置にします。

このままエンジンを数分間作動させます。

完全にエンジンが停止したら、「作動/停止」スイッチを後ろに引いて（オペレーター側）、その位置を停止します。

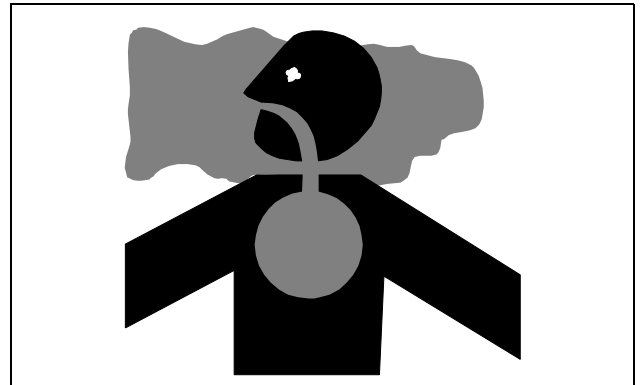
3. 「作動/停止」スイッチを後ろに引いて（オペレーター側）、エンジンを停止します。



MX11246

4. 燃料シャットオフ・バルブ (A) をオフの位置にします。

## 安全システムのテスト



# 操作



**注意：ケガの防止に留意して下さい。エンジンの排気ガスには一酸化炭素が含まれており、重篤な疾患や死亡の原因となることがあります。**

エンジンの稼動は機械を屋外に移動してから行なって下さい。

換気設備が不十分な密閉された場所ではエンジンを作動させないで下さい。

- ・ エンジンの排気用パイプに延長パイプを接続し、作業を行うエリアから排気ガスを排出します。
- ・ 新鮮な外気を作業エリアに取り入れて排気ガスを完全に排出して下さい。

機械に取り付けられている安全システムは、各使用前に点検します。安全システムの点検を実行する前に、必ず機械のオペレーターズ・マニュアルを読んで機械の操作を完全に把握して下さい。

以下の点検手順に従って機械の通常作動状態の点検を行います。

以下の手順実行中に機能不全が認められた場合には機械を操作しないで下さい。この場合、整備点検について認定代理店までお問い合わせ下さい。

これらのテストは、広く清潔な場所で行って下さい。周囲に関係のない人を近づけないで下さい。

## パーキング・ブレーキのテスト

1. パーキング・ブレーキを入れます。
  2. 低アイドルでエンジンを作動します。
  3. オペレーター・プレゼンス・ベールを使用します。
  4. 走行クラッチ・レバーをゆっくりと入れます。
- 結果：エンジンは芝刈り動作を止めて停止します。

## 「作動」スイッチのテスト

1. 「作動」スイッチを停止位置まで後ろ方向（オペレーター側）に引きます。
  2. スタート・ハンドルを引きます。
- 結果：エンジンは始動しません。

## オペレーター・プレゼンス・ベールのテスト

1. 見通しの良い空地でマシンを操作します。
  2. オペレーター・プレゼンス・ベールを解除します。
- 結果：カッティング・リールは回転を停止し、マシンは動

作を停止します。エンジンが作動し続けます。

## トレーラでの本機の運搬

トレーラに法で定められた必要なすべてのライトと標識があることを確認します。

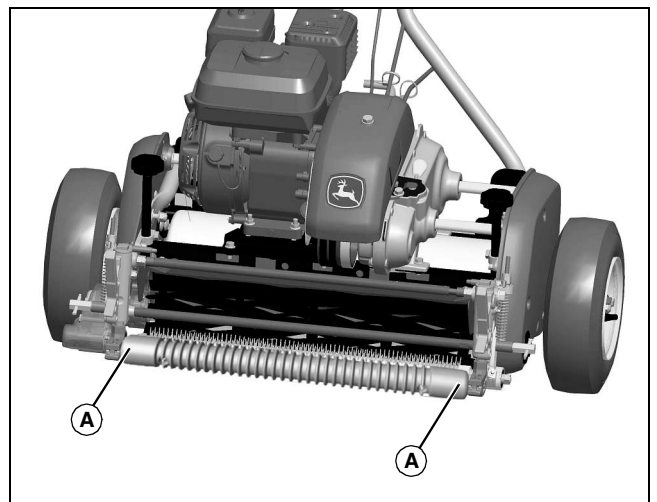


**注意：ケガの防止に留意して下さい。トレーラやトラックへの機械の積み降ろしの際は特別に注意が必要です。**

**燃料シャットオフ・バルブ（装着されている場合）を閉じて下さい。**

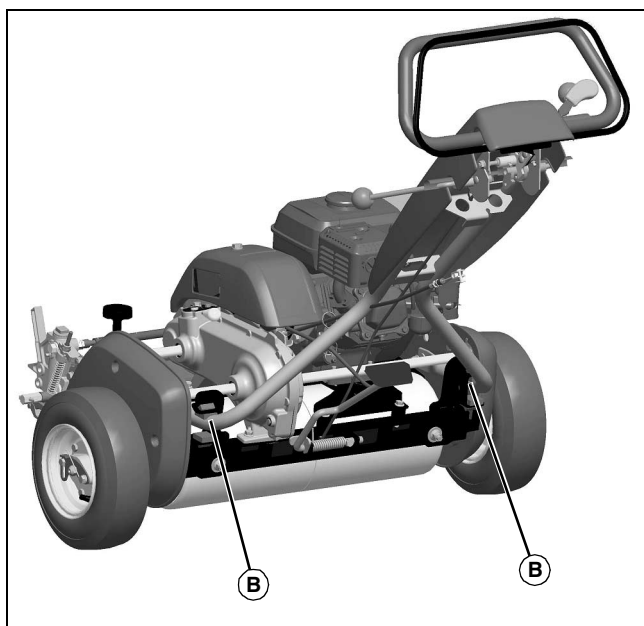
**注記：トレーラの収納能力は、機械の重さと付属品の重さの合計以上でなければなりません。（オペレーター・マニュアルの「仕様」セクションを参照して下さい。）**

1. 平らな場所にトレーラを駐車します。
2. 大型トラックを前に移動します。
3. パーキング・ブレーキをロックします。
4. 機械をオフにします。
5. 燃料シャットオフ搭載の機械：燃料シャットオフをオフ位置にします。



MX46475

6. 頑丈なストラップ、チェーン、またはケーブルを使ってトレーラに、(A)位置の前部トレーラの両側のマシンの前部を固定します。ストラップは、機械から下および外に向かって付けられていなければなりません。



MX46476

7. 頑丈なストラップ、チェーン、またはケーブルを使ってトレーラに、(B)位置のハンドルバーの両側のマシンの後部を固定します。ストラップは、機械から下および外に向かって付けられていなければなりません。

## 緊急停止



**注意：ケガの防止に留意して下さい。急停止すると機械が不安定になる場合があります。緊急時以外は急停止を行わないで下さい。**

1. オペレータ・プレゼンス・ベールを解除します。
2. パーキング・ブレーキ・レバーをかけます。
3. 始動 / オフ スイッチをオフ位置にします。



# 操作

## カッティング・ユニットの洗浄

**重要：破損しないよう注意してください。洗浄した後でグリスを塗り、フィッティングとベアリングから水分を取り除きます。**

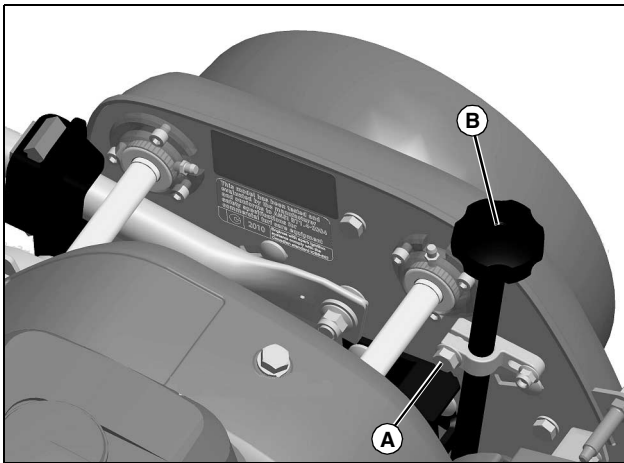
**高圧水でカッティング・ユニットから草を取り除かないで下さい。**

- ・ 機械外部の清掃には、多量の低圧水を使用します。
- ・ 電気部品がある場所の清掃には水を使わないでください。電気接続部分に水が浸透すると、機械が故障する恐れがあります。
- ・ フィルターを清掃する場合は、水でなく圧縮空気を使用してください。清掃目的で使用する場合は、圧縮空気圧を 210 kPa (30 psi) 以下にしてください。潤滑油を塗る前にグリス・フィッティングを清掃します。フィッティングが欠損、または破損している場合には直ちに交換します。

## ベッド・ナイフとリール間の隙間調整



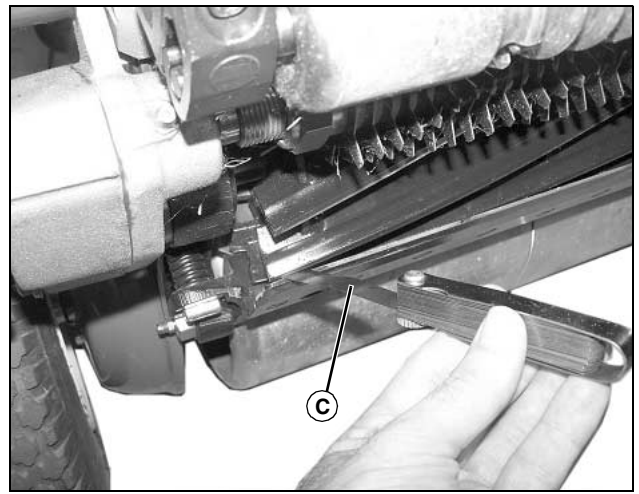
**注意：ケガの防止に留意して下さい。ブレードは鋭利です。ブレードを取り扱う時、およびブレードの周辺で作業をする場合は、必ずグローブを着用して下さい。**



1. ナイフとリール・刃間の隙間を調整するには、クランプ・ボルト (A) を緩めます。

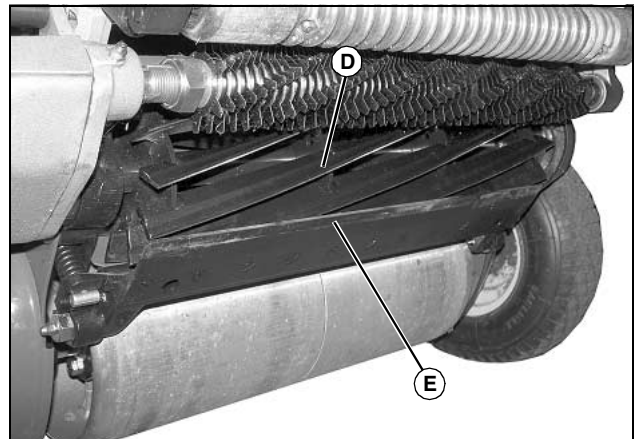
**注記：リールは手で自由に回せなければなりません。**

2. 隙間を狭くするには、調整ノブ (B) を時計方向に廻します。隙間を広げるには、調整ノブを反時計方向に回します。



3. フィーラー・ゲージ (C) を使ってリール端を 0.001" に調整します。
4. ここで、0.002" のフィーラー・ゲージを用いてベッド・ナイフを全長に渡って点検します。隙間ゲージはどこにも入らないはずですが。入る場合は、手順 7 に進みます。
5. リールがどこかで接触している場合は、手順 6 に進みます。

**注記：リールやベッド・ナイフの刃を破損させたり切れ味を悪くしたりしないように、リールは必ず逆方向に回転させます。**



6. ベッド・ナイフの中央のリールとベッド・ナイフ間の接触に気をつけながら、リール (E) をゆっくり逆方向に回転させます。接触がある場合はリールとベッド・ナイフを一周し、ベッド・ナイフのフラウン (への字) 型の弓型状態またはリールの非真円状態を取り除きます。
7. ベッド・ナイフ中心部の隙間を測定します。間隔が 0.10 mm を超える時は、リールとベッド・ナイフを研磨し、ベッド・ナイフの「スマイル型」の弓型状態またはリールの非真円状態を取り除きます。

# 操作

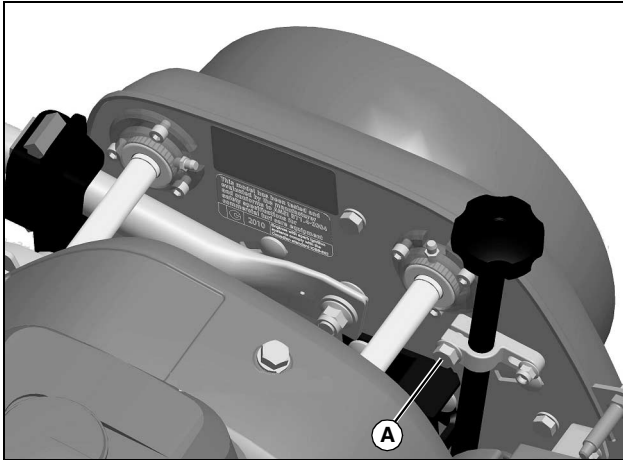
注記：ナイフをリールに締め付け過ぎないようにしてください。締め付け過ぎるとナイフや刃先が損傷する原因になります。

## 刈り高の調整



注意：ケガの防止に留意して下さい。ブレードは鋭利な上、高速で回転します：

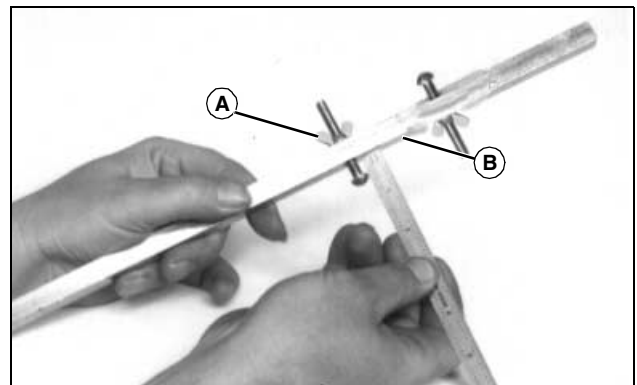
- ・ 機械の作動中は、カッティング・ユニットに手足を近づけないで下さい。
- ・ カッティング・ユニットに作業を加える必要がある場合には必ず作業用グローブをはめて下さい。
- ・ カッティング・リールを動かす場合は注意が必要です。1つのカッティング・リールを回転させると、他のブレードやカッティング・リールも回転することがあります。



MX46477

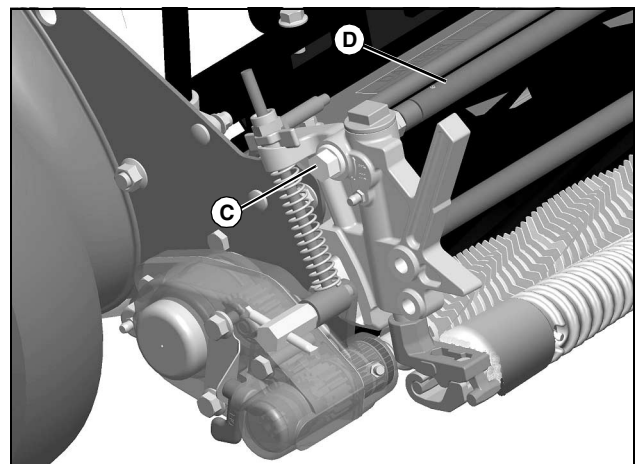
8. 両側のクランプ・ボルト (A) を締めます。

注記：刈り高を調整する前には、必ずリールへのベッド・ナイフの調整を行います。



E29234A

1. 蝶ネジ (A) を緩め、ゲージ (B) を希望の刈り高にセットします。



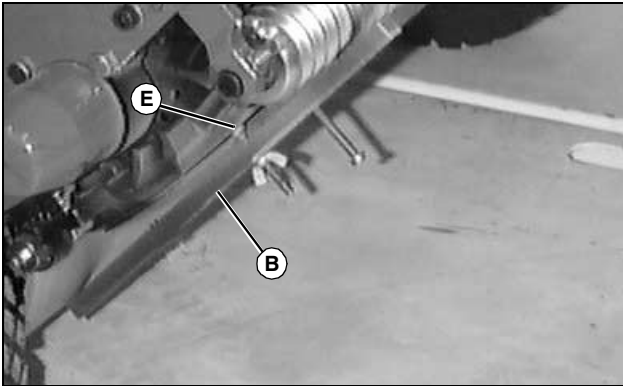
MX46495

2. カット長アジャスタ (C) (カッティング・ユニットの一方の側にある) の高さを決めます。

## 操作

**注記：**アジャスタはクロス・シャフト (D) とつながっているため、片方を回すともう一方も同時に回ります。カット長調整ハウジングの側面にあり正しい方向を示す一段高くなったシンボルを参照し、アジャスタを回してカット長を増減します。

3. カット長アジャスタ (C) を回してカット長を調整します。



M72976A

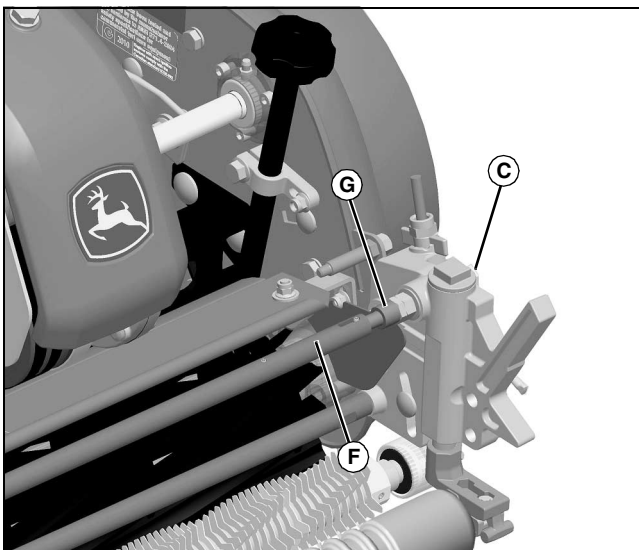
4. 前部ローラーと後部ローラーの底部およびベッド・ナイフの切口面に接するようゲージ (B) を配置します。

5. 必要に応じてアジャスタ (A) を回し、前部ローラーを上下に動かします。

**注記：**カット長を設定する前に、常に希望のカット長より低い位置まで前部ローラーを上方向に動かします。

6. ネジ山 (E) の下側がベッド・ナイフ切口に対してややくっつくまでローラー位置を調整します。

7. ゲージを取り外し、カッティング・ユニットの反対側にあるカット長調節をチェックします。



MX46737

8. カット長の水平方向の調整が必要な場合は、クロス・シャフト (F) のスプリングを緩めて、ヘクス・カップリング (G) から外します。クロス・シャフトを外します。

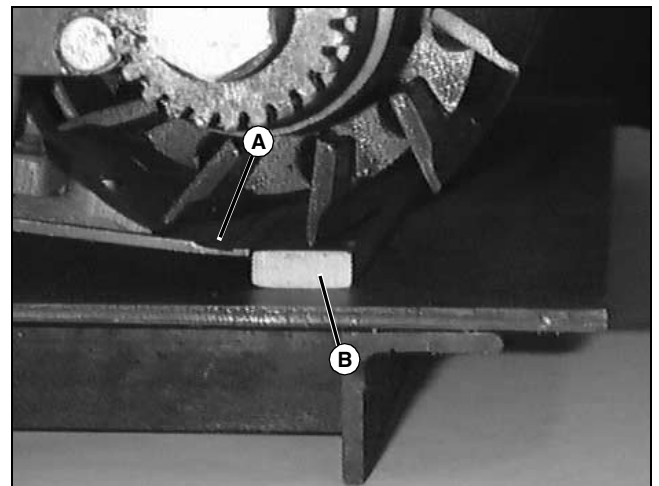
9. 調整が必要な側のアジャスタ (C) を回して、後部ローラーをゲージ・バーからわずかに離します。両方の水平方向のカット長が同じになるまで、アジャスタを反対方向に回します。クロス・シャフトを再び取り付けます。

10. 左右のカット長調整設定を点検します。

### ドライブ・ローラーとベッド・ナイフが平行になるように調整する

**注記：**ローラーを平行にするために調整する前に、ベッド・ナイフとリールの間隔を調整してください。

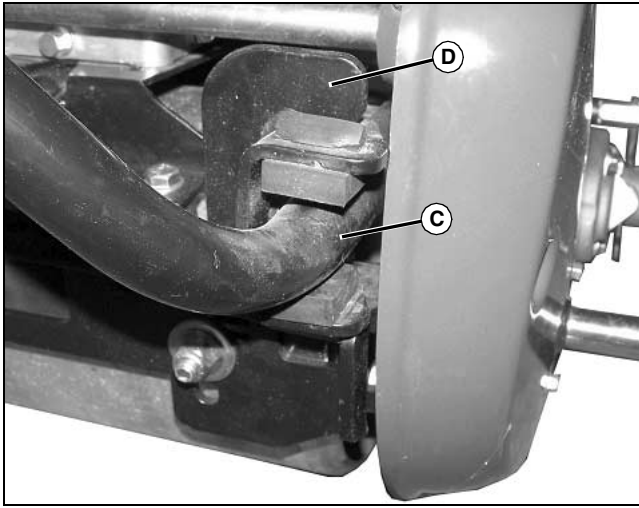
1. マシンを平らな場所に置きます。
2. 「作動 / 停止」スイッチを「停止」位置に動かします。
3. 走行クラッチ・レバーを「ニュートラル」の位置に移動します。
4. パーキング・ブレーキを入れます。
5. 草捕集器を取り外します。
6. 運搬ホイールを取り外します。



M85584

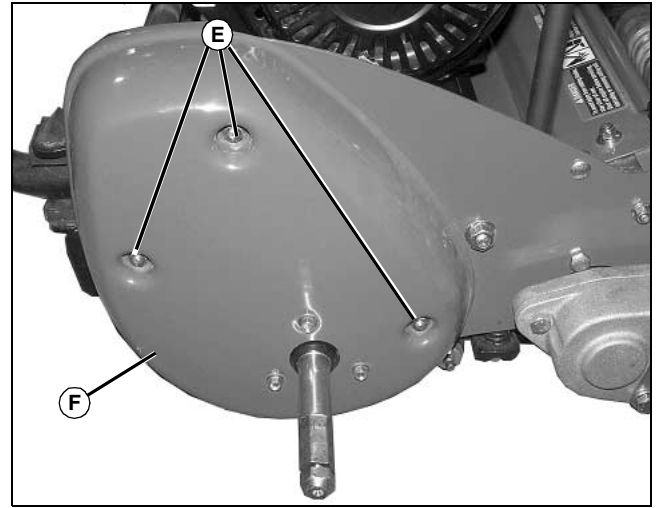
7. ベッド・ナイフ (A) がサポート・バー (B) の後部ゲージと接触するように、平らなベンチ・プレートにマシンを置きます。

## 操作



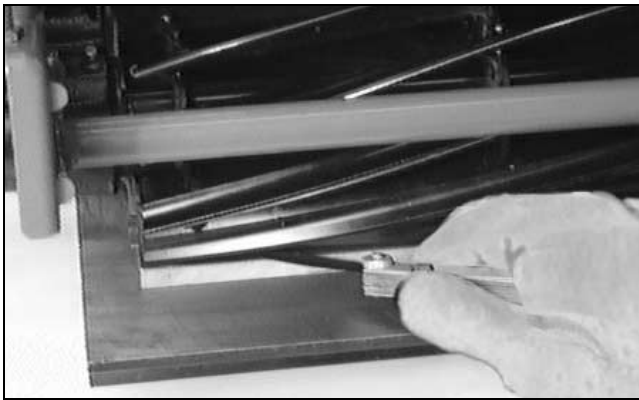
MX46596

8. 各サポート・ブラケット (D) に集まるように、ハンド roller (C) をサポートします。ベンチ・プレートからトラクション・ローラーを持ち上げないでください。



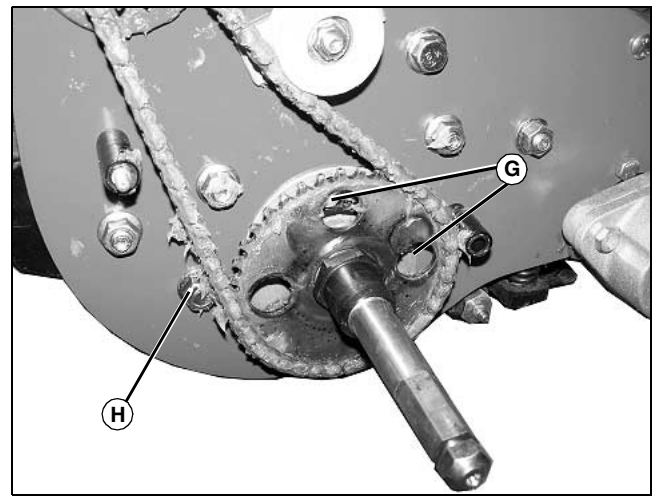
MX46596

10. フランジ・ナット (E) を取り外して、右のドライブ・カバー (F) を取り外します。



M85585

9. リールの各終端のギャップを点検します。ギャップが 0.1 mm (0.004 in.) かそれ以下の場合は、調整の必要はありません。調整が必要な場合は、次の手順に進みます。

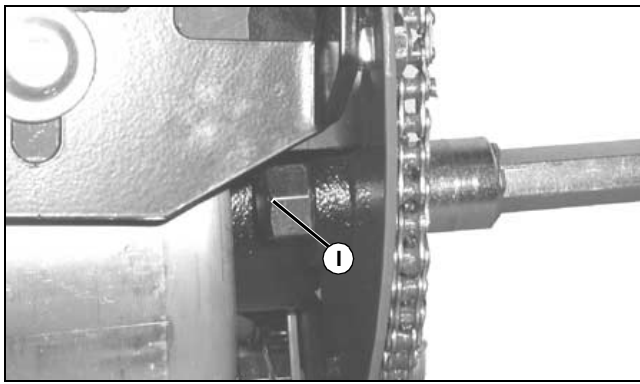


MX46597

11. スプロケットの穴とベアリング・ホルダーのキャップ・スクリュー (G) が一列に並ぶまで、ローラーを回転します。2 個のキャップ・スクリューを緩めます。

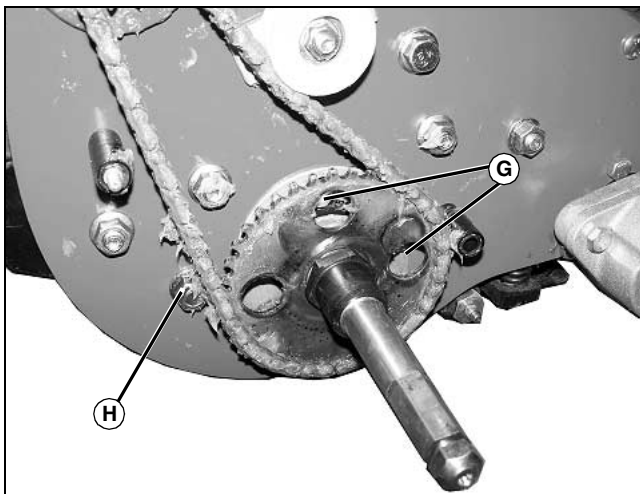
12. エクセントリック・スクリューに取り付けられているナット (H) を緩めます。

## 操作



MX6087

13. 表示されている位置にエキセントリック・ドット (I) を合わせます。リールの終端のギャップが 0,1 mm (0,004 in.) 以下になるまでエキセントリックを回転します。



MX46597

14. エキセントリック・スクリュとナット (H)、およびベアリング・ホルダーのキャップ・スクリュ (G) を 22 N・m (16 lb-ft) まで締め付けます。

15. ドライブ・カバーを取り付けます。

16. 運搬ホイールとドライブ・カラーを取り付けます (装備されている場合)。

### ターフ・コンディショナーまたは回転式ブラシの運転 (オプション)



**注意:** ケガの防止に留意して下さい。ブレードは鋭利な上、高速で回転します:

- ・ 機械の作動中は、カッティング・ユニットに手足を近づけないで下さい。
- ・ カッティング・ユニットに作業を加える必要がある場合には必ず作業用グローブをはめて下さい。
- ・ カッティング・リールを動かす場合は注意が必要です。1つのカッティング・リールを回転させると、他のブレードやカッティング・リールも回転することがあります。

**重要:** 破損しないよう注意してください。刃の切れ味が悪くならないように注意して下さい。GTC は、トップドレッシング後 3 日間使用しないでください。

芝に損傷を与えないよう、初期設定は必ず刈り高 (HOC) と同じ高さにします。

**注記:** ストレスは、灌漑、気温、湿度、薬剤散布、芝の病気、刈り取った草など、様々な原因の組み合わせにより起こります。

調整剤の強度を高める場合、このような多様な原因に合わせてモニタリングし調整を行う必要があります。

調整剤使用の頻度は場合によっては減少させる必要も出てきます。

調整剤プロセスにより、カッティングは垂直で浅くなります。ブレードはランナを切り、横に広がった草を立ち上げます。必ず頻繁に観察、点検を行い、草に負担がかからないようにして下さい。必要に応じて調整します。

最初は HOC と同じ設定にした刃でグリーンを調整します。各グリーンに一定でない箇所や、負荷がかかりすぎている箇所があるかよく調べます。必要に応じて GTC 透過率を下げます。

刈り作業を終えてから 1~2 時間後に各グリーンを点検します。黄色または褐色がかっていないかをチェックして下さい。黄色や褐色への変色は、草が過剰なストレスを受けたことを示しています。

ストレスがある場合は、GTC の透過率を低くします。芝にストレスの兆候がないかを頻繁に点検します。

### 回転式ブラシ

・ 最初に刈り高と等しい高さにセットしてある回転式ブラシの高さを設定するときは、芝の状態を考慮してください。

・ ブラシの高さを刈り高より低く設定すると、芝により大きなブラッシング効果をもたらしますが、これはブラシの

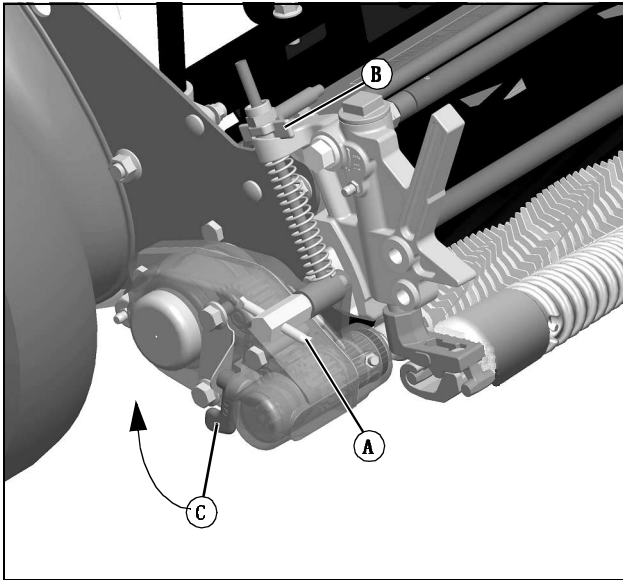
# 操作

摩耗を加速し、芝にストレスを与える原因となることがあります。

・ 回転式ブラシの操作中は、芝にストレスや損傷の兆候がないかよく監視し、高さを再調整してこれらの影響を最小化してください。

・ トップドレッシングや追肥後は、回転式ブラシの操作を避けて下さい。芝に適用されると、ブラシはこのような物質を除去してしまいます。

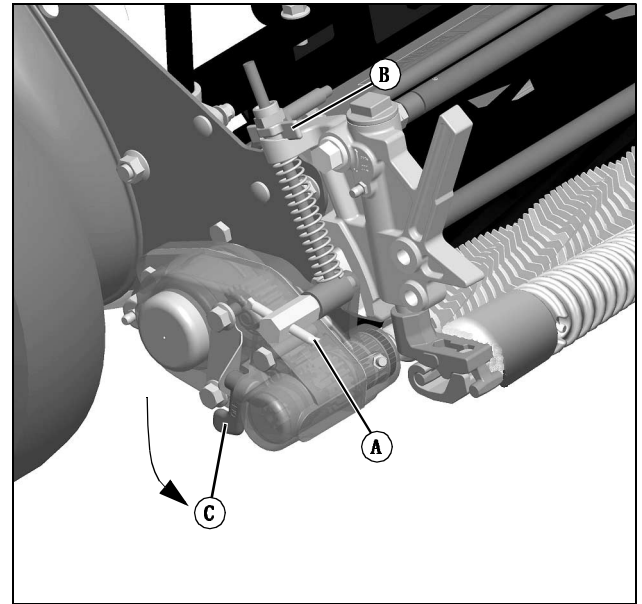
## GTC または回転式ブラシの使い方



MX46495

1. 両側の T ハンドル (A) を緩めます。
2. カutting・ユニット両側の蝶ネジ (B) を回して GTC または回転式ブラシ・シャフトを降下させます。
3. 両側の T ハンドルを (A) を締め付けます。
4. ハンドル (C) を「始動」位置の戻り止めまで上に回します。

## GTC または回転式ブラシの解除方法



MX46495

1. ハンドル (C) を「オフ」位置のデテントまで下に回します。
2. 両側の T ハンドル (A) を緩めます。
3. カutting・ユニット両側の蝶ネジ (B) を回して、GTC または回転式ブラシ・シャフトを上げます。
4. 両側の T ハンドルを (A) を締め付けます。

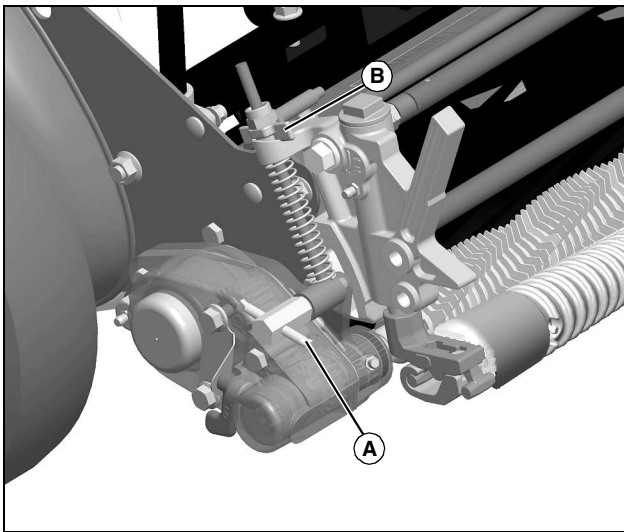
## Greens Tender Conditioner (GTC) または回転式ブラシの調整



**注意：ケガの防止に留意して下さい。ブレードは鋭利な上、高速で回転します：**

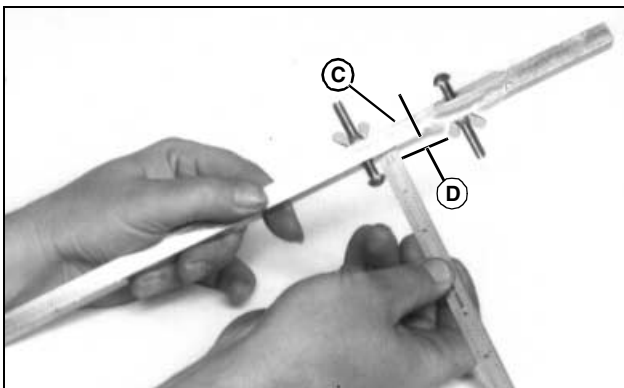
- ・ 機械の作動中は、カutting・ユニットに手足を近づけないで下さい。
- ・ カutting・ユニットに作業を加える必要がある場合には必ず作業用グローブをはめて下さい。
- ・ カutting・リールを動かす場合は注意が必要です。1つのカutting・リールを回転させると、他のブレードやカutting・リールも回転することがあります。

# 操作



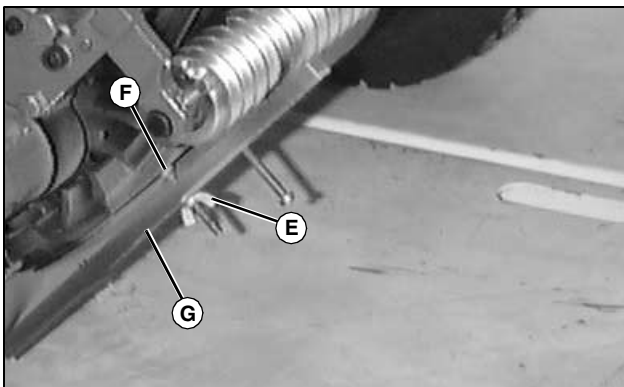
MX46495

1. カutting・ユニット両側の T ハンドル (A) を緩めます。
2. カutting・ユニット両側の蝶ネジ (B) を回して GTC または回転式ブラシ・シャフトを降下させます。



E29234a

3. ネジ山の終端からゲージ (C) の先端までの長さを計ります。これがモア作業を行う場合の刈り高 (D) となります。

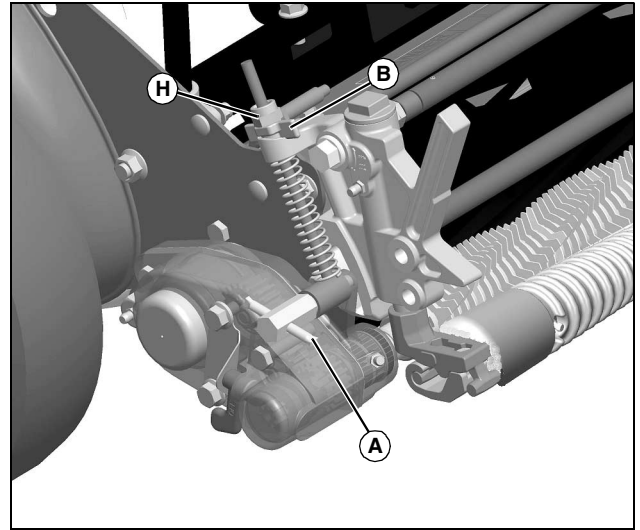


M72976a

4. 蝶ネジ (E) を緩め、ネジ (F) を刈り高から 1 mm (1/32 in.) の上の位置 (回転式ブラシの伴う)、または刈り高

からを最大 1 mm (1/32 in.) 下の位置 (グリーン軟化用調整剤の伴う) に調整します。

5. 前部ローラー、後部ローラーおよびベッド・ナイフ切口面の底部を背景にゲージ (G) を配置します。



MX46495

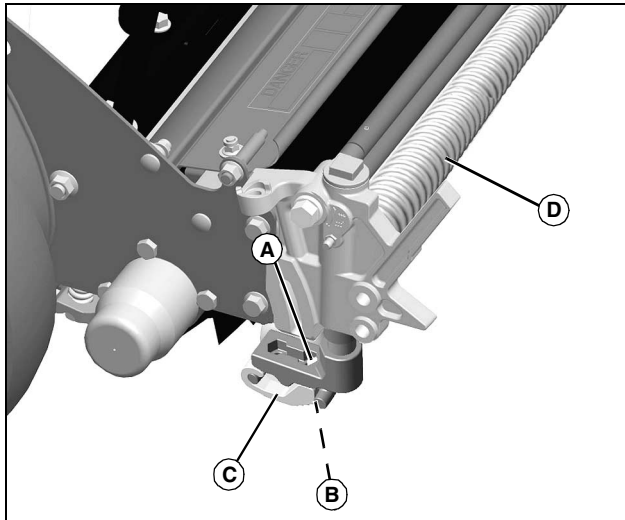
6. カutting・ユニット両側のロックナット (H) を回し、GTC または回転式ブラシ・シャフトの高さを均等に昇降させて希望の高さにします。
7. カutting・ユニット両側の蝶ネジ (B) を回して、GTC または回転式ブラシ・シャフトを上げます。
8. カutting・ユニット両側の T ハンドル (A) を締めます。

**注記:** ブラシ、カッターが正しく調整されていないと、エンジンの回転率が下がったり、機械の移動が片側に片寄って不均等になったりします。

# 操作

## 前部ローラー位置の調整

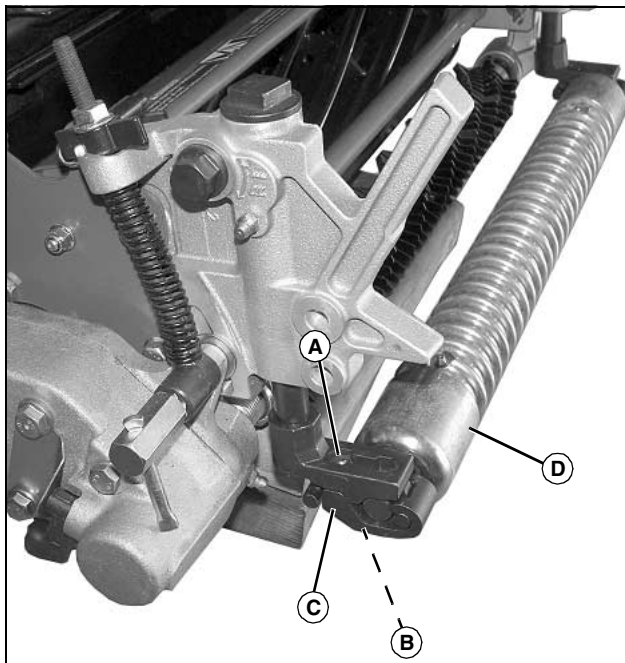
**注記：**前部ローラーの位置をリールにより近づけたり遠ざけたりすることができます。前部ローラーをリールに近づけると、よりよく輪郭をたどることができます。GTC すなわち回転式ブラシを取り付けられるようにするため、前部ローラーはリールから離して位置する必要があります。



MX46738

**図注：**リールのより近くに置かれた前部ローラー。

1. ローラー位置を動かすには、ナット (A) とソケット・ヘッド・ボルト (B) を取り外します。
2. ブラケット (C) および前部ローラー (D) を取り外します。



MX46598

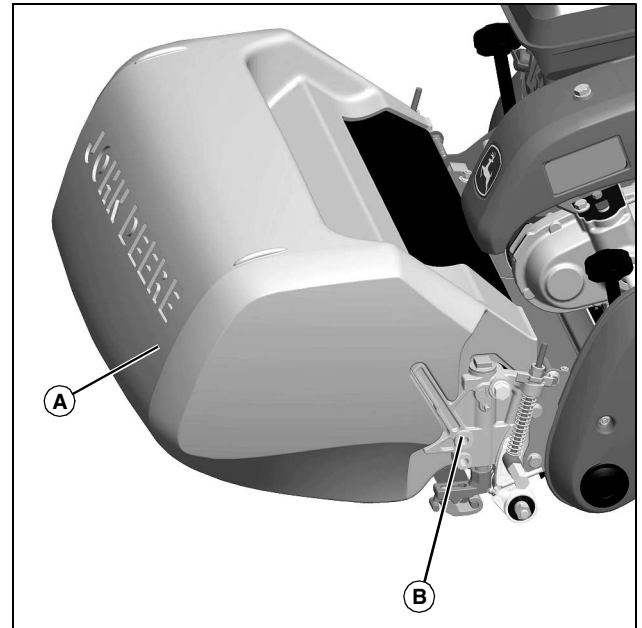
**図注：**リールからより遠くに置かれた前部ローラー。

3. 図のように各サイドにあるブラケット (C) を回し、ブ

ラケットにローラー (D) を取り付けます。各サイドをボルト (B) とナット (A) で固定します。

4. 刈り高を調整します (「刈り高の調整」を参照)。

## 草捕集器の取り外しと取り付け

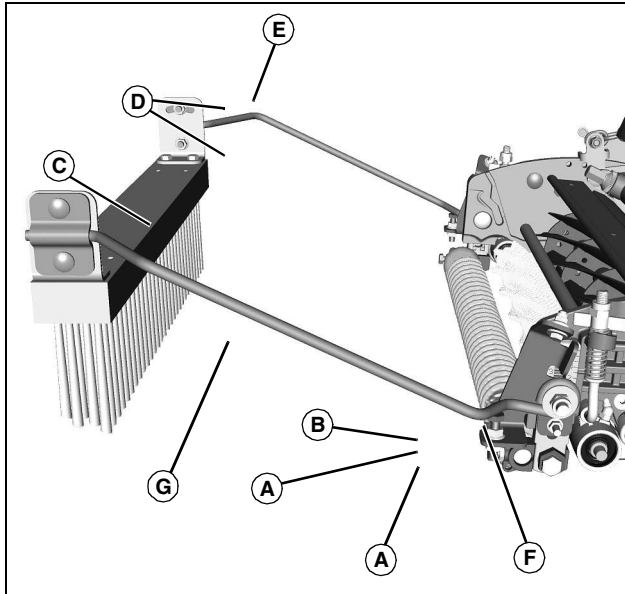


MX46580

1. 草捕集器 (A) をリール上の穴付きブラケット (B) に取り付けます。
2. 取り外して中身を空にするには、後方に引いてから上方に上げて穴付きブラケットから取り外し、空にします。



## ターフ・ブームの操作



MX46581

### 1. ブームの調整：

- ・ ブーム高を調整するには、2つのジャム・ナット (A) を緩め、ブームが希望の高さになるまでボルト (B) を回転します。反対側でも同様にします。ジャム・ナットを締めてブーム位置を固定します。
- ・ ブーム (C) 角度を調整するには、両側の2つのナット (D) を緩め、ブラケット (E) 上でブームを回転させます。2つのナットを締めて位置を固定します。

### 2. ブームを取り外すには、ロックナット (F)、スペーサ、および根角ボルトを外し、リールからブラケット (G) と共にブームを取り外します。

## 交換用パーツ

### 整備点検用文献

本機のパーツ・カタログまたは技術マニュアルをご希望の場合は、以下までお問い合わせ下さい。

- ・ **米国/カナダ** 1-800-522-7448。
- ・ **上記の国を除く全地域**：最寄のジョン・ディア代理店へお問い合わせ下さい。

### パーツ

ジョン・ディア純正の高品質なパーツと潤滑油のご使用を推奨します。純正品は最寄のジョン・ディア代理店にてお求め下さい。

パーツ番号は変更されることがあります。ご注文の際は下記に一覧されているパーツ番号をご使用下さい。番号に変更があった場合には代理店で把握していますので、お問い合わせ下さい。

ご注文の際は、お使いの機械や付属装置のシリアル番号、または製品認識番号（PIN）が必要となります。これらの番号は、本マニュアルの「製品識別」セクションでお客様に書き写していただいた番号です。

### 整備点検用パーツのオンラインでの注文

インターネットでのパーツ注文と関連情報については、<http://JDParts.deere.com> をご参照下さい。

### パーツ番号

アイテム	パーツ番号
エア・クリーナ。	AM123909
スパーク・プラグ	M128206
スパーク・アレスタ	M147855
クラッチ・ベルト	AMT2800
<b>標準ベッド・ナイフ：</b>	
・ 22 インチ	ET17533
・ 26 インチ	MT6947
・ 硬化インサート付き 22 インチ	ET11066
<b>トーナメント・ベッド・ナイフ：</b>	
・ 18 インチ	MT4846
・ 22 インチ	ET17534

アイテム	パーツ番号
<b>ローカット・ベッド・ナイフ：</b>	
・ 18 インチ	MT7350
・ 22 インチ	MT7351
<b>ティーカット・ベッド・ナイフ：</b>	
・ 22 インチ	ET17532
・ 26 インチ	MT6946

# 整備点検周期

## 機械の整備点検

**重要：破損しないよう注意してください。極端な条件での作動では、より頻繁な整備点検が必要となります**

・ 酷暑やホコリ、その他の過酷な条件下での作動では、エンジン部品が汚れたり目詰まりを起こしたりする可能性があります。

・ 機械を継続的に低速で操作したり短距離の走行を頻繁に行ったりすると、エンジン・オイルが劣化することがあります。

下記の表に従って、機械の定期点検を行って下さい。

### ブレークイン期間中 - 機械の稼働から 5 時間経過後

・ ドライブ・ベルトの張りをチェックし、必要に応じて調整します。

### ブレークイン期間中 - マシンの初期稼働時から 20 時間経過後

- ・ エンジン・オイルを交換します。
- ・ ハードウェアのゆるみを点検して、必要に応じて締め付けます。
- ・ 燃料沈殿物用の受け皿をきれいにします。

### ブレークイン期間中 - 機械の稼働から 50 時間経過後

- ・ リールとローラー・ドライブ・チェーン張力を点検し、調整します。
- ・ ギア・ケースのオイルを交換します。

### 毎日

- ・ リールのベアリングにグリースを塗ります (2 箇所)。
- ・ グリーン軟化用調整剤 (GTC) または回転式ブラシとベアリングにグリースを塗ります。
- ・ 前部ローラーのベアリングにグリースを塗ります (2 箇所)。
- ・ エンジン・オイル・レベルを点検します。

### 50 時間ごと

- ・ 燃料沈殿物用の受け皿をきれいにします。

- ・ エア・クリーナー・フォーム・エレメントをきれいにします。
- ・ エア・クリーナーのペーパー・エレメントを点検します。
- ・ ナイフ・シュー・シャフトに油を塗ります。
- ・ ドライブ・コントロール結合部にグリースを注入します。
- ・ オペレータ・プレゼンス・パールとカムにグリースを注入します。
- ・ ドライブ・ローラーに油を塗ります (2 箇所)。
- ・ インプット・ドライブからグラウンド・ドライブ・チェーン (2 箇所) にグリースを注入します。
- ・ インプット・ドライブからグラウンド・ドライブ・チェーンまでグリースを塗ります (1 箇所)
- ・ カット長アジャスタの前部ローラーにグリースを塗ります (2 箇所)
- ・ HOC ブラケットにグリースを塗ります。
- ・ エンジン・オイルを交換します。
- ・ 搬送タイヤを検査して、空気圧を点検します (装備している場合)

### 稼働 100 時間おき

- ・ スパーク・プラグおよび調整用ギャップをきれいにします。
- ・ シリンダおよびシリンダ・ヘッドの冷却フィンをきれいにします。
- ・ ギア・ケース・オイルを点検します。

### 稼働 300 時間おき

- ・ エア・クリーナーのペーパー・エレメントを交換します。(ホコリの多い状況下ではより頻繁に交換する。)
- ・ リールとローラー・ドライブ・チェーン張力を点検し、調整します。
- ・ ドライブ・ベルトの張力が適切か点検し、必要に応じて調整します。
- ・ スパーク・プラグを取り替え、ギャップを調整します。

### 年 1 回または 500 時間毎

- ・ シリンダ、シリンダ・ヘッドおよびピストンからカーボンを除去します。(「テクニカル・マニュアル」をご参照いただくか、またはジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。)

## 整備点検周期

---

- ・バルブ類を点検します。必要に応じて表面を新しくするか、交換します。  
(「テクニカル・マニュアル」をご参照いただくか、またはジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。)
- ・バルブの隙間をチェックして調整します。(「テクニカル・マニュアル」をご参照いただくか、またはジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。)

# 整備点検 — 潤滑油

## グリース

**重要：破損しないよう注意してください。部品の不具合や早期の磨耗を避けるため、ジョン・ディア社製のグリースを使用することをお勧めします。**

ジョン・ディア製の推奨グリースの場合、-29 ~ 135 清 (-20 ~ 275 濁) の平均気温範囲の使用に適しています。

この温度範囲外で使用する場合は、特別用途のグリースについてお近くのサービス代理店までお問い合わせ下さい。

### 下記のグリースが推奨されます：

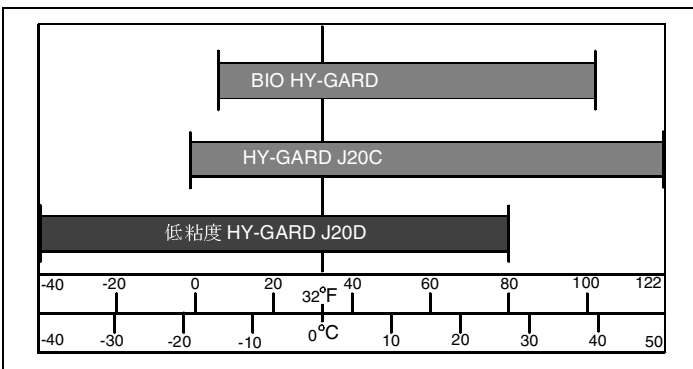
- ・ ジョンディア製汎用 SD リチウム・ポリ尿素グリース (John Deere Multi-Purpose SD Polyurea Grease)
- ・ ジョン・ディア製ゴルフ・アンド・ターフ・カッティング・ユニット・グリース (John Deere Golf and Turf Cutting Unit Grease)

推奨グリース以外のグリースを使用する場合は、必ず NLGI グレード 2 級を満たす標準の汎用グリースをお選び下さい。

水分を多く含む環境や高速での作業の場合、特別用途のグリースが必要になることがあります。詳しくはお近くのサービス・ディーラーまでご連絡下さい。

## トランスミッションおよび作動油

**重要：破損しないよう注意してください。機械は、John Deere HY-GARD(TM) (J20C) Transmission/Hydraulic Oil/J20C 他のオイルを混ぜないで下さい。「F」タイプのオートマチック・トランスミッション・オイルは使用しないで下さい。**



MIF

オイルは次のオイル交換までに予想される気温に適したオイル粘度のものを使用して下さい。

John Deere J20C HY-GARD Transmission/Hydraulic Oil が推奨されます。John Deere J20D 低粘度 HY-GARD Transmission/Hydraulic Oil も使用できます。

生分解性オイルが必要な場合は John Deere BIO HY-GARD エ オイルを使用して下さい。

その他のオイルも John Deere の基準 JDM J20C または J20D を満足すれば使用可能です。

## 生分解性オイル

### 使用

**重要：破損しないよう注意してください。生分解性オイル、BIO HY-GARD エ以外は推奨できません。**

生分解の潤滑油の使用を希望、または求められる場合は、BIO HY-GARD が推奨されます。BIO HY-GARD は通常の刈り条件下で使用することができます。

以下の作業に使用される機械に生分解性の潤滑油を使用しないで下さい。

- ・ 剥ぎ取り作業に使用される機械
- ・ 32° C (90° F) を超える温度での垂直刈り作業
- ・ 生分解性オイルと鉱油を混合すると、機械内での潤滑油の生分解性を低めることとなります。HY-GARD と BIO HY-GARD とを混合すると、性能低下の原因となります。

### 寒冷気候下での作動

BIO HY-GARD の容器または機器が長い間極端に低い温度で保管される場合は、特別の注意が必要です。BIO HY-GARD が以下の温度に晒される場合は、凍結を予想する必要があります：

- ・ -18° ~ -23° C (-1° ~ -10° F) で 6ヶ月間保管
- ・ -23° ~ -26° C (-10° ~ -15° F) で 7 日間保管
- ・ -26° ~ -29° C (-15° ~ -20° F) で 3 日間保管
- ・ -29° ~ -34° C (-20° ~ -30° F) で 2 日間保管
- ・ -34° C (-30° F) 以下で 1 日保管

**重要：破損しないよう注意してください。機器の始動または作動を試みることは、BIO HY-GARD エ粘度が作動に安全なレベルに達するまで行わないで下さい。**

BIO HY-GARD の凍結が疑われる場合は、容器または機器を少なくとも 0° C (32° F) まで暖め、24 ~ 48 時間維持してフルイドが安全な作動粘度に達していることを確認する必要があります。

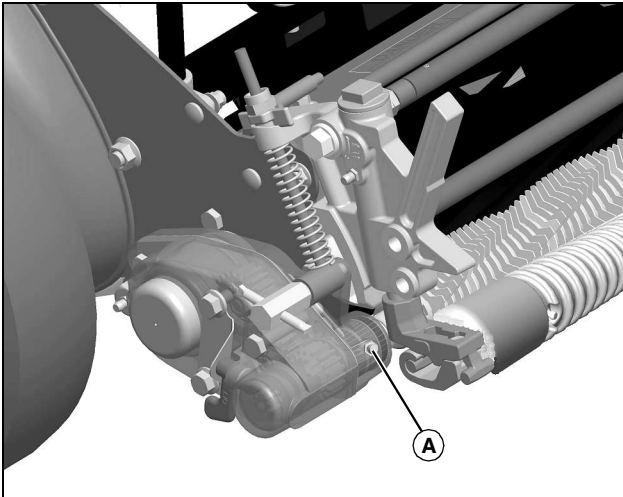
## HY-GARD から BIO HY-GARD への転換

HY-GARD から BIO HY-GARD ヘシステムを転換する場合は、以下の手順に従って潤滑油の生分解性を最大にしてください。

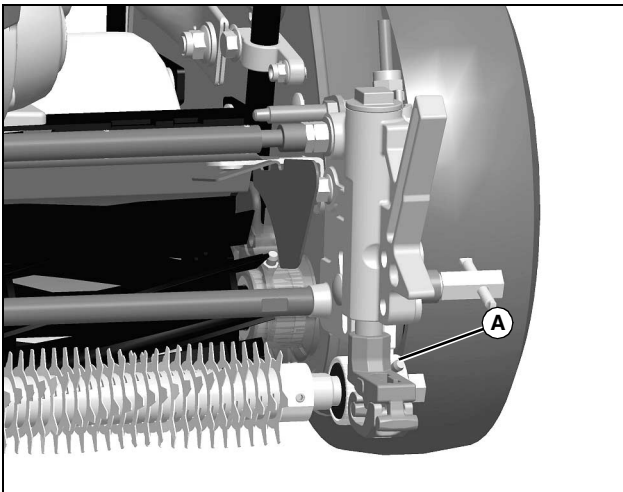
## 整備点検 — 潤滑油

1. マシンを平らな場所に置きます。
2. エンジンを止め、パーキング・ブレーキをかけます。
3. ギアケースを排出します。
4. ギアケースに BIO HY-GARD を適切なレベルまで満たします。
5. エンジンを始動させ、中位のアイドル状態にします。
6. カutting・リールを複数回循環します。
7. エンジンを停止し、油圧オイルのレベルを点検します。BIO HY-GARD を適切なレベルまで追加します。
8. 通常の作動状態で最低2時間マシンを操作します。
9. 手順1~7を繰り返します。
10. 推奨されるサービス点検間隔に従ってください。

### 回転式ブラシまたはGTC（グリーン軟化用調整剤）の注油



MX46495

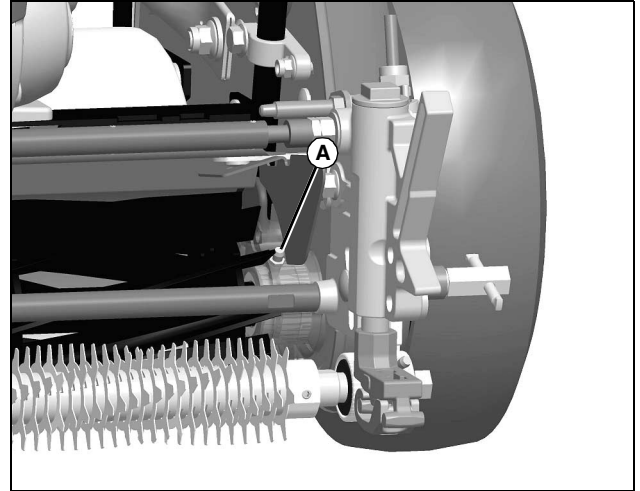


MX46584

John Deere 製マルチパーパス SD ポリウレアグリースまた

は同等のSAE汎用グリースを、GTCまたは回転式ブラシ（両端）のポイント（A）に注油します。

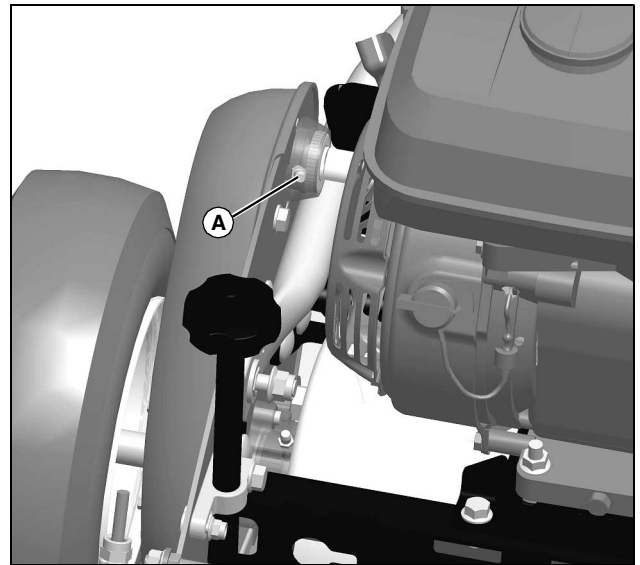
### リールへの注油



MX46584

位置（A）のリール（芝刈り機の個々のサイド）のリールに John Deere マルチパーパス SD ポリウレアグリースまたは同等 SAE 汎用グリースを注油します。

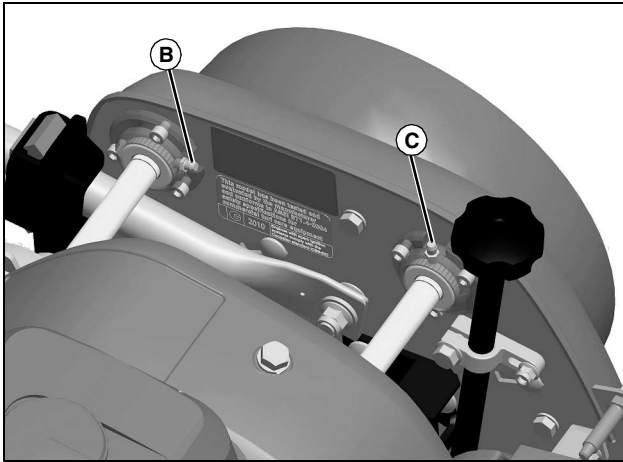
### インプット・ドライブの注油



MX46583

1. John Deere 製マルチパーパス SD ポリウレアグリースまたは同等 SAE 汎用グリースを使用して、位置（A）のアースのドライブ・チェーン（右側）のインプット・ドライブに注油します。

## 整備点検 — 潤滑油

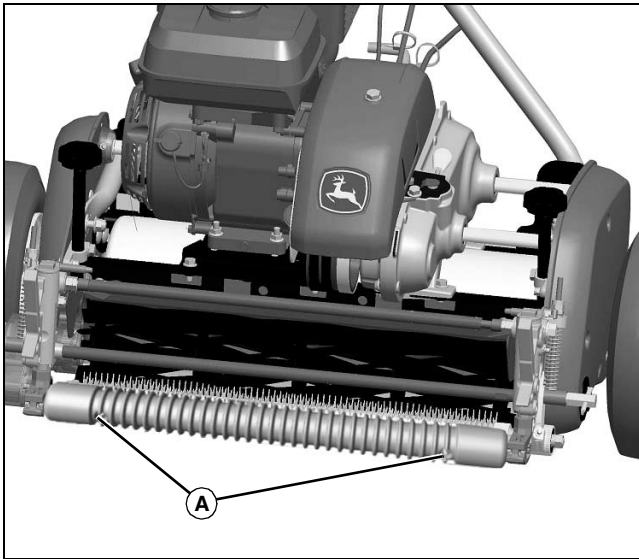


MX46477

2. John Deere マルチパーパス SD ポリウレアグリースまたは同等 SAE 汎用グリースを使用して、(A) 位置のアースのドライブ・チェーン（左側）のインプット・ドライブに注油します。

3. John Deere マルチパーパス SD ポリウレアグリースまたは同等 SAE 汎用グリースを使用して、位置 (C) のリールのドライブ・チェーンインプット・ドライブに注油します。

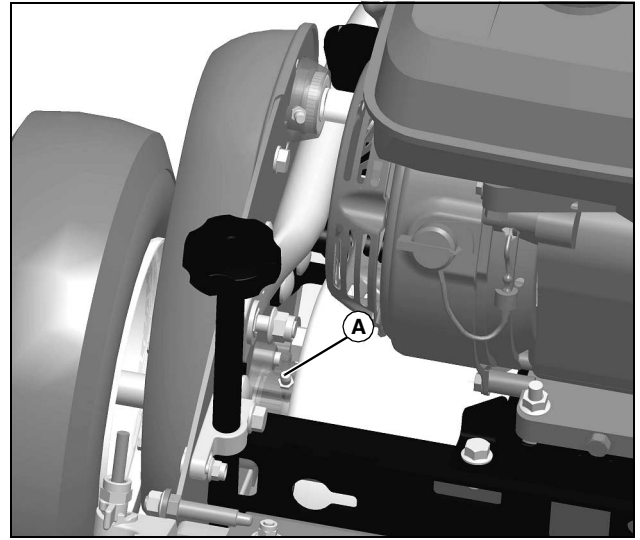
### 前部ローラーの潤滑



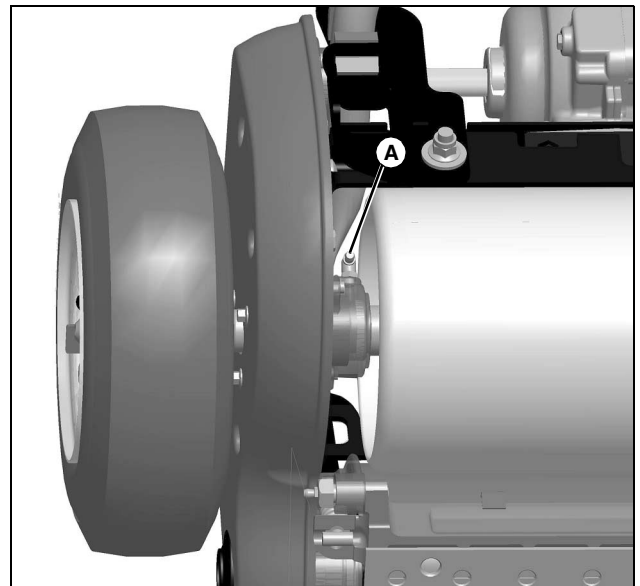
MX46475

John Deere Multi-Purpose SD Polyurea グリースまたは同等の SAE マルチパーパス \_ グリースを使用して、2 点 (A) の前部ローラーに注油します。

### ドライブ・ローラーの注油



MX46583



MX46585

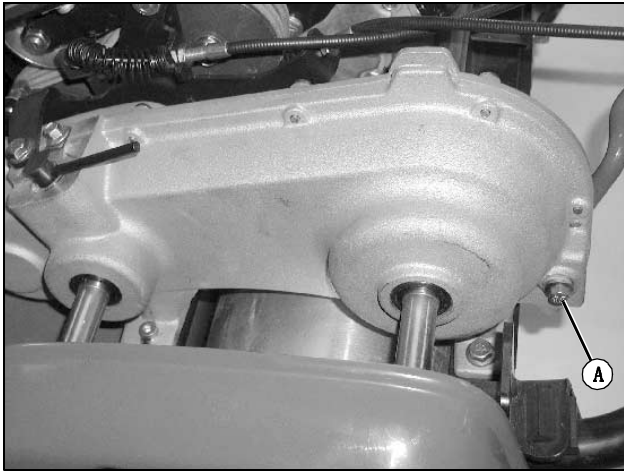
#### 図注：モータ底部からの図。

John Deere 製マルチパーパス SD ポリウレアグリースまたは同等 SAE 汎用グリースを使用して、位置 (A) のドライブ・ローラーに注油します。

### ギア・ケースの点検と充填

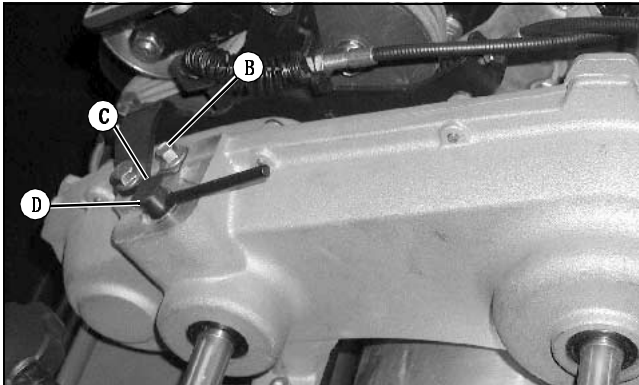
**注記：最初の稼働 50 時間が経過したら、ギアケースのオイルを交換します。**

## 整備点検 — 潤滑油



MX21102

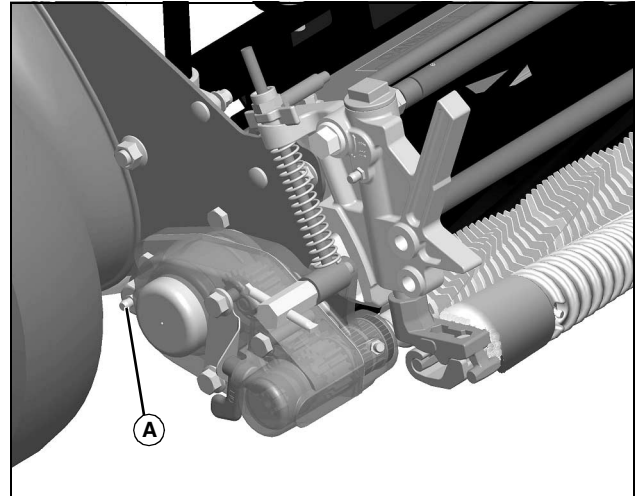
1. 前部ローラーとレベル・マシン間の下にブロックを置きます。
2. ドレン・プラグ (A) を取り外して、オイルが排出口の底にあることを確認します。
3. 潤滑油の量を点検します。
4. John Deere Hy-Gard オイルを充填します。
  - ・ オイルの容量 : 0.4 L (0.4 qt).
5. ベルト・カバーを取り外します。



MX21102

6. スプリング・ボルト (B) を緩めます。
7. スプリング (C) を適当に回転します。
8. ハンドル (D) を取り外して充填します。
9. 取り付けは取り外しと逆の順序で行います。

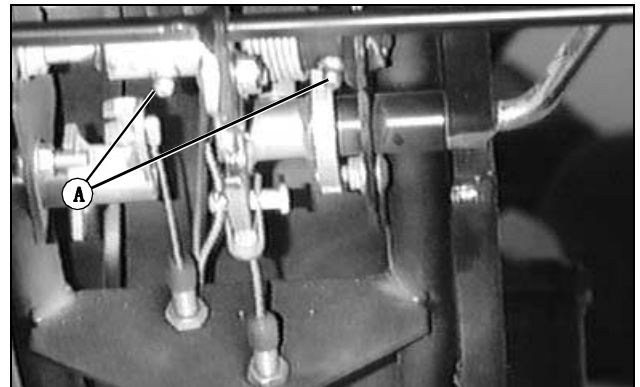
### ナイフ・シュー・ピボット・ボルトの注油



MX46495

位置 (A) のナイフ・シュー・ピボット・ボルト (芝刈り機の個々のサイド) に John Deere 製マルチパーパス SD ポリウレアグリースまたは同等 SAE 汎用グリースを注油します。

### ドライブ・コントロール・リンケージの注油

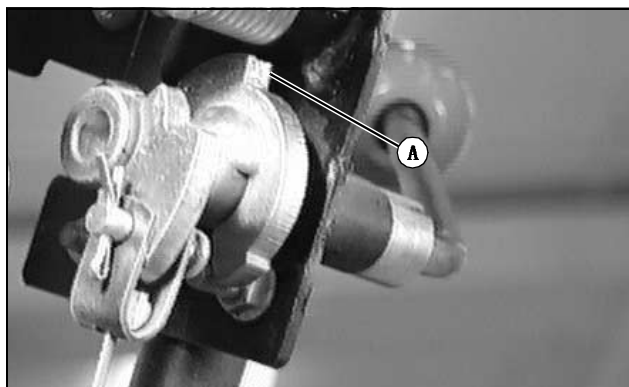


M60624

John Deere マルチパーパス SD ポリウレアグリースまたは同等の SAE マルチパーパスグリースを使用して、位置 (A) のドライブ・コントロール・リンケージに注油します。



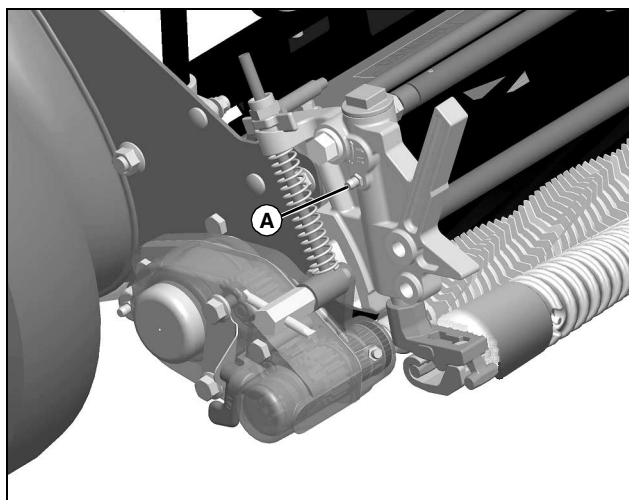
### オペレーター・プレゼンス ポールとカム



M72981

位置 (A) のオペレーター・プレゼンスのポールとカムに油を塗ります。

### カット長ブラケットの注油



MX46495

カット長ブラケット（両端）のポイント (A) に、ジョンディア製マルチパーパス SD ポリウレアグリースまたは同等の SAE 汎用グリースを注油します。

# 整備点検 - エンジン

## エンジンの保証およびメンテナンスに関する表明

本機エンジンの排気制御装置およびシステムのメンテナンス、修理、および交換は、お客様が自費で実行される場合には、ノンロード・エンジン用のエンジン修理施設への委託は可能です。保証下の修理は、認定を受けたジョン・ディア代理店によって行われなければなりません。

## 排気ガスを避ける



**注意：ケガの防止に留意して下さい。エンジンの排気ガスには一酸化炭素が含まれており、重篤な疾患や死亡の原因となることがあります。**

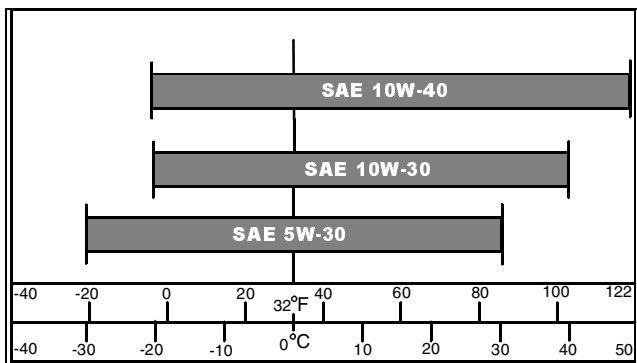
エンジンの稼動は機械を屋外に移動してから行なって下さい。

換気設備が不十分な密閉された場所ではエンジンを作動させないで下さい。

- ・ エンジンの排気用パイプに延長パイプを接続し、作業を行うエリアから排気ガスを排出します。
- ・ 新鮮な外気を作業エリアに取り入れて排気ガスを完全に排出して下さい。

## エンジン・オイル・ガソリン

オイルを交換する際は、次の交換に至るまでの間、どの程度の気温が予想されるかを判断し、予想気温に適するオイル粘度を選んで下さい。



下記のジョン・ディア社製オイルを推奨します。

- ・ TURF-GARD II™
- ・ PLUS- 4™

このジョン・ディア社製オイルが入手できない場合は、下記の仕様に適合していれば他のオイルを使用することも可能です。

- ・ API 整備点検等級 SJ 以上。

## 適正燃料の使用

オクタン価 87 以上のレギュラー無鉛ガソリンを使用して下さい。エタノール 10% 以下、または MTBE 改質ガソリン 15% 以下を含む混合燃料は、使用可能です。メタノールを含む燃料や添加剤はエンジンを損傷させる場合があるため、使用しないで下さい。

新しいきれいな燃料を、約 30 日以内に使いきれぬ量だけ入れるか、あるいは燃料安定剤を添加して下さい。

燃料は、最高の性能を発揮できるよう、季節に応じてブレンドされています。エンジンがかかりにくい、ベーパーロックが起きるなどのエンジン性能に関する問題をなくすためにも、季節にあった燃料をお使い下さい。暖かい時期には暖かい時期に購入した燃料を、寒い時期には寒い時期に購入した燃料をご使用下さい。

シーズン中にたまにしかエンジンを始動しないと、燃料が淀んでしまうことがあります。燃料が古くなると固化してキャブレターを詰まらせ、エンジン性能を低下させる原因となることがあります。

燃料容器の蓋は確実に閉め、直射日光の当たらない涼しい場所に保管して下さい。密閉されていないかたり日光や熱にさらされた場合、燃料は分解して劣化することがあります。

動作条件や環境によって燃料タンク内に結露が生じ、機械の動作に影響を受ける場合があります。毎回の作業終了後には給油を行い、燃料は結露防止のためプラスチック容器に入れて保管して下さい。

年間を通して性能を最適化し燃料の管理を容易にするため、燃料を購入したら直ちに安定剤を添加して下さい。こうすることで、エンジンの性能劣化を防ぎ、タンクから燃料を抜くことなしに一年中機械に燃料を入れておくことが可能になります。

## 整備点検 - エンジン

### 燃料タンクの補充



注意：ケガの防止に留意して下さい。燃料蒸気は爆発性で可燃性です。

- ・ 燃料タンクに燃料を補充する際はエンジンを停止して下さい。
- ・ 燃料取り扱い中の喫煙は厳禁です。
- ・ 燃料は火炎やスパークに近付けないで下さい。
- ・ 屋外またはよく換気された場所で給油して下さい。
- ・ 燃料をこぼした場合は直ちに拭き取って下さい。
- ・ 静電気の放電を防止するため、汚れのない認可済みの非金属製容器を使用して下さい。

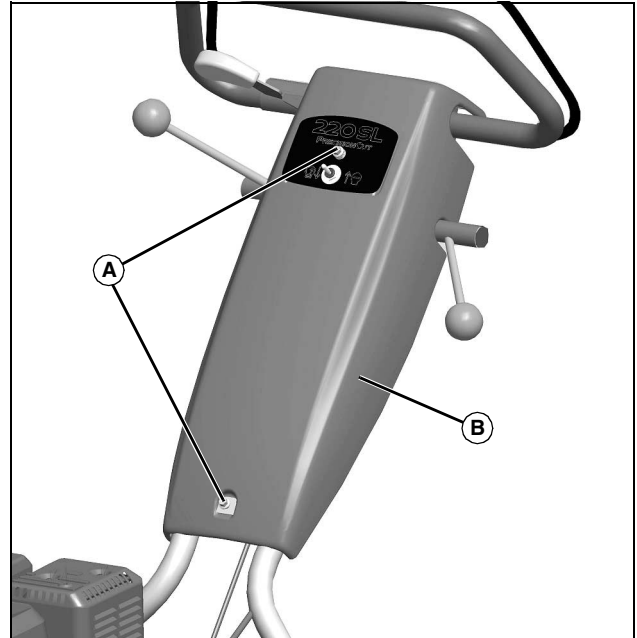
重要：破損しないよう注意してください。燃料中のゴミや水分はエンジン損傷の原因となります：

- ・ 燃料タンクの開口部からゴミや異物をきれいに除去してください。
- ・ 不純物のない、安定剤の添加された新しい燃料を使用して下さい。
- ・ 燃料は各作業後に毎回補充し、タンクの結露を防止します。
- ・ 燃料タンクや容器に燃料を充填する際は、プラスチック製メッシュ・ストレーナ付きの非金属製漏斗を使用して下さい。

気温が低い間は、凍結や結露を防ぐため、毎日の作業後に毎回燃料を補充して下さい。

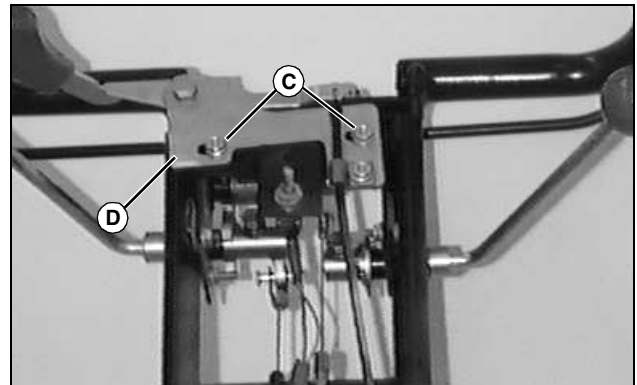
1. 機械を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。）
2. エンジンの温度が下がるまで待ちます。
3. 燃料タンク・キャップの周辺のゴミを取り除いて下さい。
4. 燃料タンク内に溜まった圧力を逃がすため、燃料タンク・キャップはゆっくり回して外して下さい。
5. 燃料の注入は、補給孔の下までにとどめて下さい。入れ過ぎないようにして下さい。
6. 燃料タンクのキャップを戻します。
  - ・ ガソリン・モデル：カチッとハマるまでキャップを回します。

### スロットル・レバー位置の調整



MX46582

1. 2個の六角ヘッド・ボルト (A) を外します。
2. ハンドルバー・カバー (B) を取り外します。

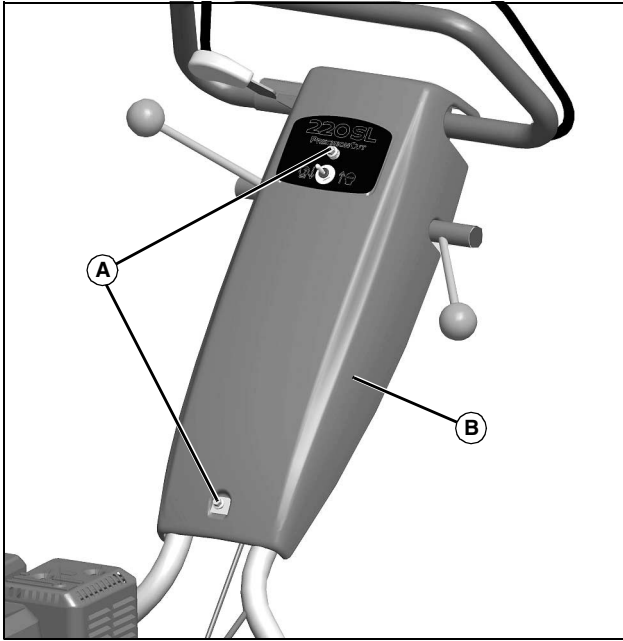


M72968A

3. 2個のナット (C) を緩めます。
4. スロットル・レバーの位置がオペレータにとって最適な位置になるように、スロットル・レバー・プレート (D) を移動させます。
5. ナットを締めます。
6. ハンドルバー・カバーを2個のボルトで取り付け固定します。

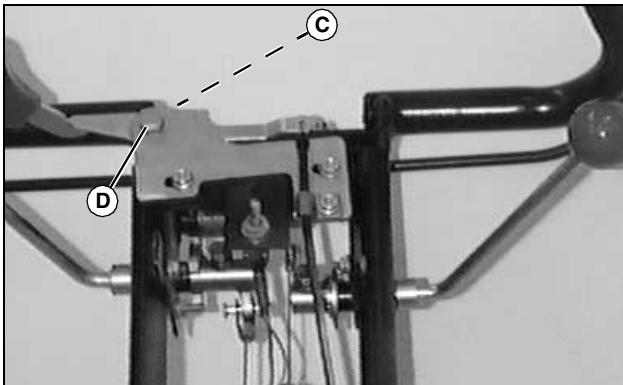
# 整備点検 - エンジン

## スロットル・レバー張力の調整



MX46582

1. 2個の六角ヘッドボルト (A) を外します。
2. ハンドルバー・カバー (B) を取り外します。



M72968A

3. レンチを2個使用し、スロットル・ピボット・ボルト (D) のロック・ナット (C) を、必要に応じて緩めるかまたは締め付けるかして調整します。調整がきちんとなされている場合、スロットル・レバーは、容易に動かせる状態でも運転中の適切なスロットル設定を維持できます。
4. ハンドルバー・カバーを2個のボルトで取り付けて固定します。

## エア・クリーナーの掃除

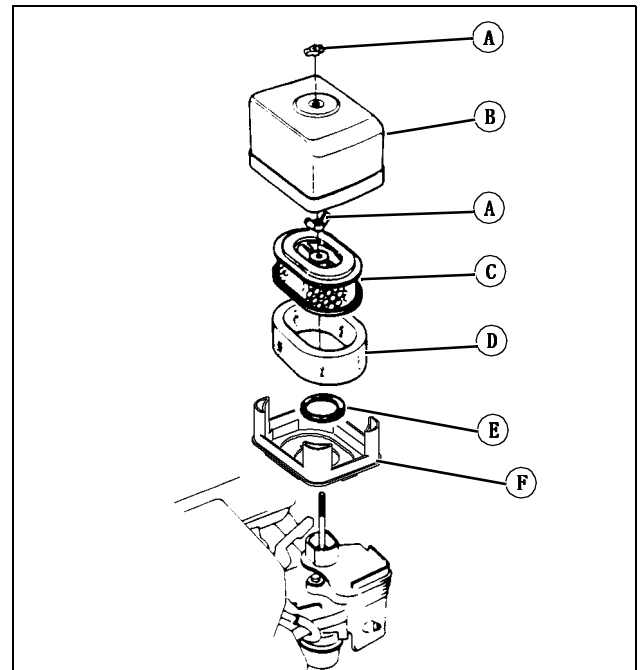


注意：ケガの防止に留意して下さい。高温面に触れると、皮膚に火傷を負うおそれがあります。エンジンの作動により、エンジンや部品、液体類は高温になります。整備点検作業、エンジンやコンポーネント周辺での作業を行う場合は、必ずエンジンの温度が下がるのを待ってから行って下さい。

重要：破損しないよう注意してください。フィルタ・エレメントが破損していると、そこからエンジン内にゴミや異物が入り込む可能性があります。

- ・ ペーパー・エレメントは洗浄しないで下さい。
- ・ ペーパー・エレメントを何かにたたきつけてホコリを落とさないでください。
- ・ エレメントの清掃に圧縮空気を使用しないでください。
- ・ エレメントの交換は、ひどい汚れや破損がある場合、またはシールにひびが入っている場合にのみ行います。

1. ウイング・ナット (A) を取り外して、エア・クリーナー・カバー (B) を取り外します。



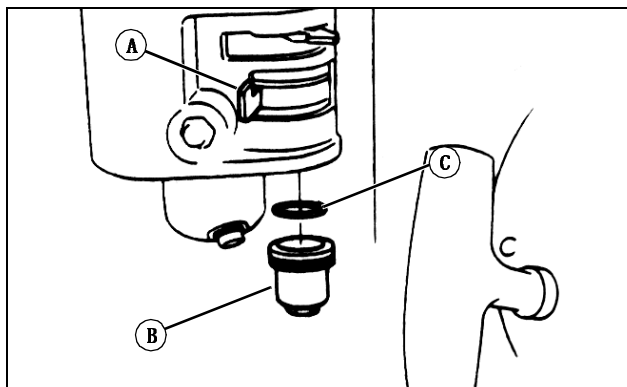
MX21103

2. 2つめの蝶ネジ (A) を取り外し、エア・クリーナー・エレメント (C) およびプレクリーナ (D) を取り外します。
3. ハウジング、プレクリーナー、エレメントおよびゴム製ガスケット (E) を点検し、破損が無いことを確かめます。ハウジングはしっかりと装着され、フィルターされた空気だけがキャブレターに達する必要があります。必要に応じて交換して下さい。

**重要：破損しないよう注意してください。溶剤および圧縮空気を用いてプレクリーナーを掃除しないでください。**

4. 空気の通過を妨げるものが何も無いことを十分に確認して下さい。
5. プレクリーナー (D) - 稼動 25 時間おきに掃除します：
  - ・ 洗浄は洗剤入りの水で、すすぎはきれいな水で行います。
  - ・ 完全に乾燥させます。
- ・ エア・クリーナ・エレメント (C) - 稼動 10 時間おきに掃除または交換を行います：
  - ・ 汚れがひどい、または破損している場合は新しいものと交換します。
  - ・ エア・クリーナ・アッセンブリを組み立て、蝶ネジ 2 個を取り付けます。ベース (F) が正しく取り付けられていることを確認してから組み立ててください。

### 燃料沈殿物受け皿の掃除



M86623

1. 燃料シャットオフ・バルブ (A) をオフの位置にします。
2. ネジを緩め、沈殿物用受け皿 (B) および O リング (C) を取り外します。
3. ジョン・ディア脱脂用溶剤または同等の溶剤により完全にグリース分を取り除き、掃除します。
4. 受け皿を取り付けます。

## 整備点検 - エンジン

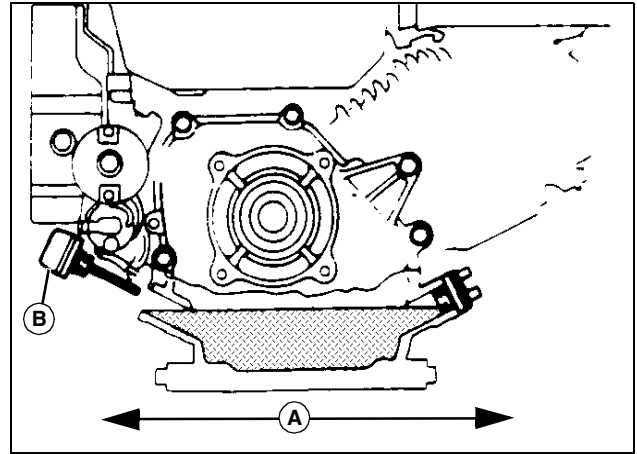
### エンジン・オイル・レベルの点検

**重要：**破損しないよう注意してください。オイル・レベルを定期的に点検しないと、オイル量が作動範囲を下回った場合、エンジンに重大な支障が起こる可能性があります。

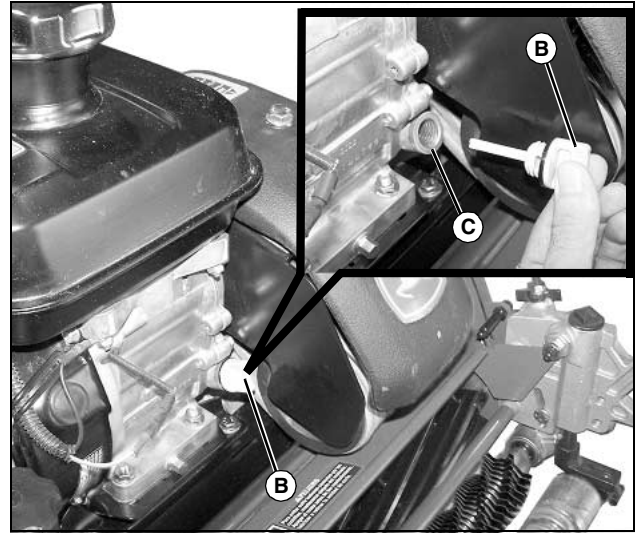
- ・ オイルの量を点検する前には必ずエンジンを水平な状態にして下さい。
- ・ 作動前にオイル・レベルを点検して下さい。
- ・ オイル・レベルの点検は、エンジンが作動しておらず温度が十分下がっている時に行います。
- ・ オイル量はディップスティックの2つのマークの間に保ちます。
- ・ エンジンを止めてからオイルを追加します。

**注記：**1日に4時間以上エンジンを運転する場合は、1日に2回オイルを点検してください。

エンジン・オイルのレベルを点検する場合は、エンジンが冷えていることを確認してください。



M86629



MX46594

1. エンジンが平らな（水平）位置（A）にあることを確認してください。必要なら、前部ローラーの下にブロックを置いてエンジンを水平にします。

**注記：**オイルの量を点検する際に、ディップスティックをエンジン内に捻じ込まないこと。

2. ディップスティック（B）を取り出し、きれいにぬぐってからフィルター・ポートの中にゆるく取付ます。
3. ディップスティックをもう一度抜き取り、オイル・レベルを点検します。ディップスティックにオイルがまったく、またはほんの少ししか付いていない場合は、フルレベル（C）まで追加補充します。入れ過ぎないようにして下さい。
4. モア上にオイルがこぼれていたら全てきちんと拭き取ります。

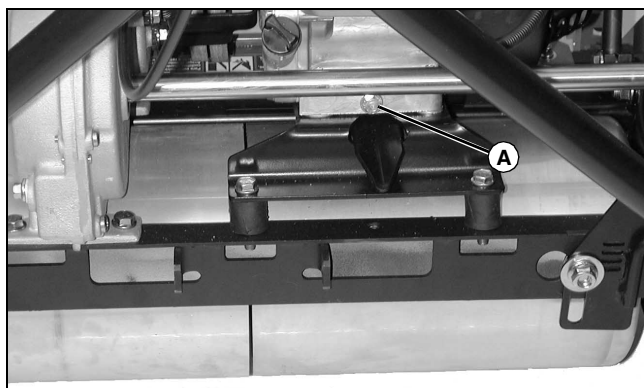
### エンジン・オイルの交換

**注記：**エンジン・オイルは稼働時間が20時間に達したところでまず交換し、その後は50時間おきに交換します。

## 整備点検 - エンジン

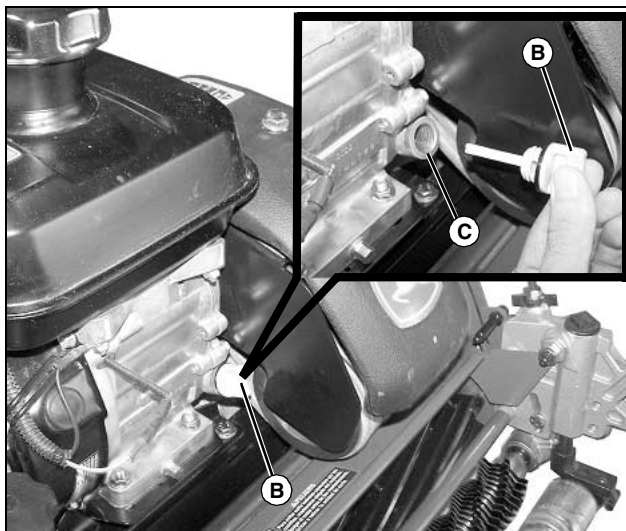
プラグが機械の前部と後部にあることを確認して、充填します。

1. オイルを暖めるためにエンジンを数分間作動させます。
2. エンジンが平らな（水平）状態になっていることを確認します。必要であれば、前部ローラーの下にブロックを挿入してエンジンを水平にします。
3. エンジンを止めます。



MX11253

4. 油抜きプラグ (A) を取り外し、用意した容器内にオイルを抜きます。
5. ドレーン・プラグを取り付けます。



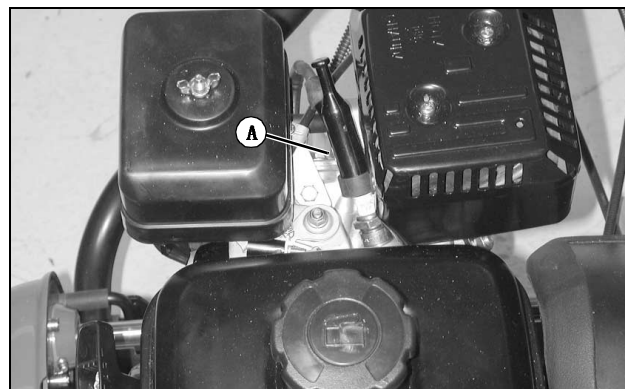
MX46594

6. ディップスティック (B) を引き抜き、オイルを拭き取ってきれいにします。
7. 約 0.6 L (0.63 qt) のオイルを追加してフルレベル (C) にします。入れ過ぎないようにして下さい。（「オイル・レベルの点検」を参照して下さい。）
8. モア上にオイルがこぼれていたなら全てきちんと拭き取ります。

スパーク・プラグの掃除と電極ギャップの調整



**注意：**ケガの防止に留意して下さい。高温面に触れると、皮膚に火傷を負うおそれがあります。エンジンの作動により、エンジンや部品、液体類は高温になります。整備点検作業、エンジンやコンポーネント周辺での作業を行う場合は、必ずエンジンの温度が下がるのを待ってから行って下さい。

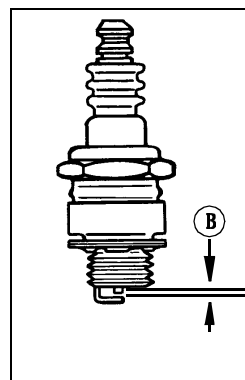


MX11268

1. プラグ・ワイヤー (A) を外し、プラグを取り外します。
2. 引火性の無い溶剤およびワイヤー・ブラシを使用し、プラグの汚れを完全に落とします。
3. プラグを点検し、ポーセリン部分のひび割れ、電極のへこみや破損、その他の破損部分がないことを確認します。

**注記：**カナダ国内では、プラグはレジスター・プラグを使用しなければなりません。

4. 必要であればプラグを交換します。



M85200

5. ワイヤータイプの丸いフィーラー・ゲージを使用し、プラグ・ギャップ (B) を点検します。

・ 隙間は必ず 0.7 ~ 0.8 mm (0.028 ~ 0.31 in.) に調整して下さい。

・ ギャップを変更する場合は、必ず外部電極のみを真中の電極部の方向に移動させて行って下さい。

6. プラグを取り付け、25 Nm (18 lb-ft) になるように締めます。
7. スパーク・プラグ・ワイヤを接続します。

### キャブレータの調整

**注記：キャブレータはエンジンメーカーが設定しているので、調整の必要はありません。**

**エンジンを標高 1829m 以上の場所で作動させる場合には高い標高用のメインジェットが必要になる場合もあります。その場合は、ジョン・ディア代理店へお問い合わせ下さい。**

エンジンが始動しにくい、またはスムーズに作動しない場合は、本マニュアルの「故障診断」の章をご覧ください。

故障診断の章のチェック項目を確認した後も、エンジンの不調状態が続く場合は、ジョン・ディア代理店までご連絡下さい。



## 整備点検

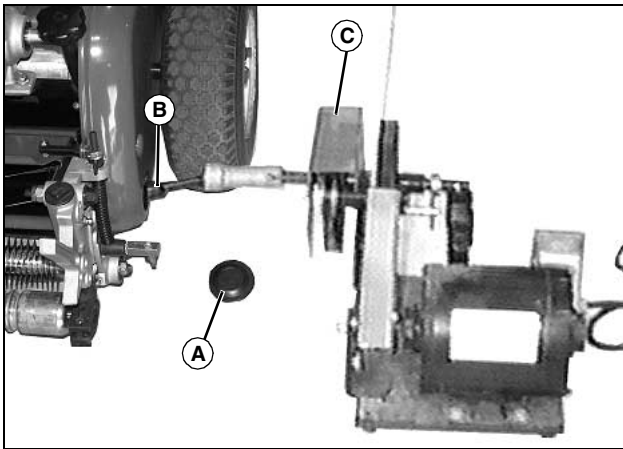
### バックラッピング

**重要：破損しないよう注意してください。カッティング・リールをできるだけ長く使用できるように、定期的に研磨します。**

**ベッド・ナイフを締め過ぎるとその終端の消耗度が激しくなります。**

カッティング・リールに必要な尖った先端を保つためには、以下の手順に従って下さい：

1. 研磨する前に、カッティング・リールのベッド・ナイフを調整します。ブレードの長さ全体に均等になるようにベッド・ナイフを調整する必要があります。



MX46591

2. カバー (A) を取り外します。
3. リール・シャフトに 3/8-in のバックラッピング・ボルトで取り付けます。
4. ソケット・ヘッド・エクステンション (B) をボルト上にセットします。
5. エクステンションをバックラッピング・ユニット (C) に接続します。



**注意：ケガの防止に留意して下さい。回転している刃に触れてケガをしないように注意して下さい：：**

- ・ 研磨する前に GTC (Greens Tender Conditioner) を外します。
- ・ 研磨中は手足を近付けないで下さい。

6. バックラッピング・モーターのスイッチを入れます。リールが逆方向に回転していることを確認します。
7. 長い柄の付いたブラシを使用し、リール研磨用コンパウンドをリールの一端からもう片方へ向かってできるだけ均一に塗布します。次に、反対側に向かって同様に研磨剤を塗布します。リールが静かに回転するようになるまで (約3分間) リールを廻し続けます。

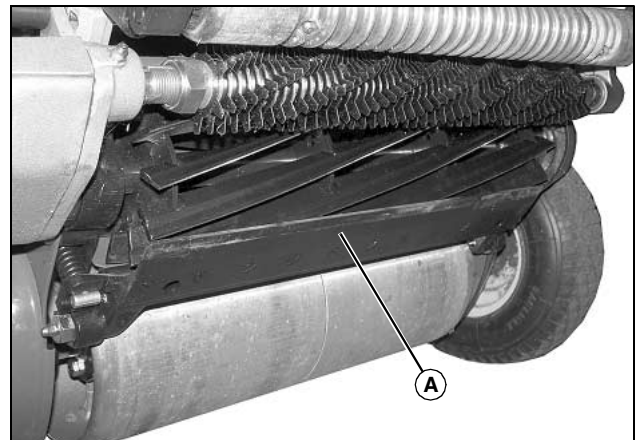
8. ブレードの外見は、定期的に目で見て確認して下さい。各ブレードが均一に研磨されるまで、バックラップを続けて下さい。

9. モーターをオフにし、バックラッピング・ユニットの接続を切ります。

**注記：すべてのラッピング・コンパウンドがリールおよびベッド・ナイフから取り外されるまで、リールを前進方向で作動しないでください。切れ味が悪くなる場合があります。**

10. リール研磨用のコンパウンドは水で完全に洗い流します。
11. バックラッピング・ボルトを取り外し、カバーを取り付けます。
12. ベッド・ナイフとリールの間隔を調整します。

### 取り付けと取り外し ベッド・ナイフとシュー



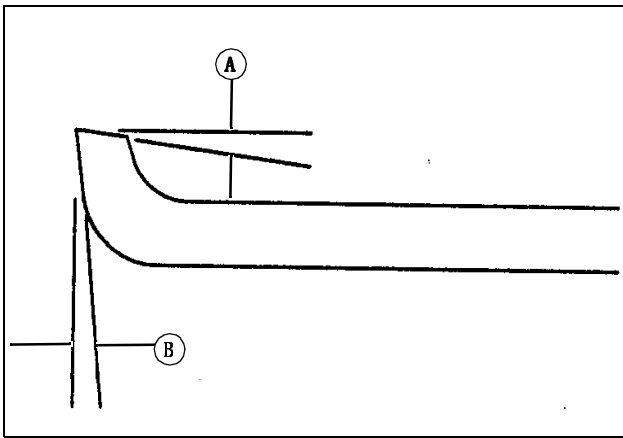
MX46578

1. すべてのベッド・ナイフのネジとベッド・ナイフ (A) を取り外します。
2. ベッド・ナイフおよび新しいネジを取り付けます。真中のネジから始め、交互に締め付けを行います。
3. ベッド・ナイフとリールの間隔を調整します。
4. カッティング・リールを研磨します。

### ベッド・ナイフの研磨

**注記：ベッド・ナイフとサポート・アセンブリは一つのユニットとして研磨しなければなりません。**

## 整備点検



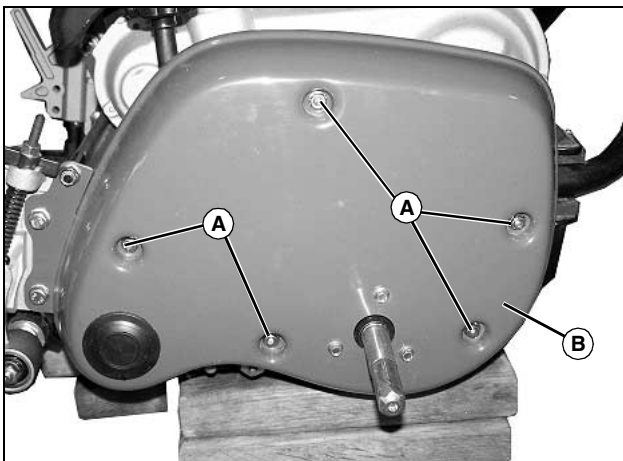
M47199

1. ベッド・ナイフを研磨する際は、必ず上部表面 (A) には 6.5 度、前部表面 (B) には 15 度の逃げ角をつけて下さい。
2. ベッド・ナイフ・サポートとベッド・ナイフの全体を適切な研磨器にセットし、ベッド・ナイフの上部と前部の表面全体にわたって素材が均一に取り除かれるようになるまで研磨します。

### リールまたはローラー・ドライブ・チェーンの調整

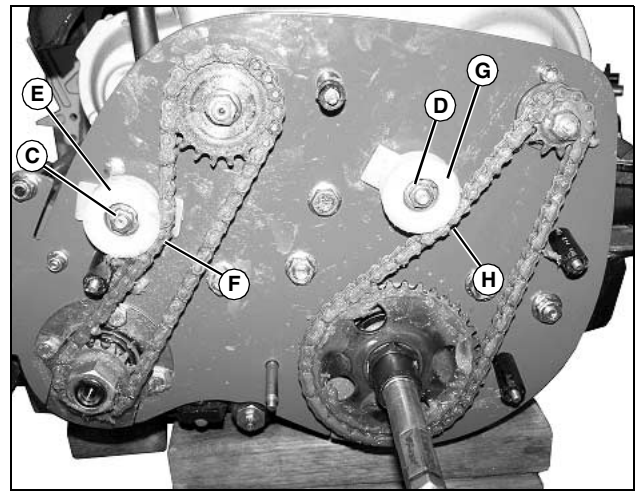
**重要：破損しないよう注意してください。チェーンを調整する前のマシンをしっかりとブロックしてください。**

1. 必要に応じて搬用ホイールを取り外します。



MX46599

2. 左のドライブ・カバー (B) 上の 5 個のナット (A) を取り外します。
3. カバーを取り外します。

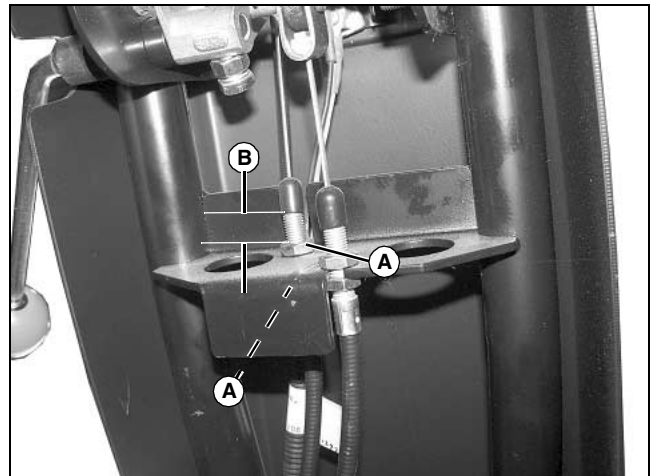


MX46600

4. リール・ドライブ・チェーン・ナット (C) またはローラー・ドライブ・トレイン・ナット (D) を緩めます。
5. リール・ドライブ・チェーン：チェーンが中間位置 (F) で 6 mm (1/4-in.) 曲がるまでアイドラ (E) を前後にスライドします。ナット (C) を締めます。
6. ローラー・ドライブ・チェーン：チェーンが中間位置 (H) で 11 mm (7/16-in.) 曲がるまでアイドラ (G) を前後にスライドします。ナット (D) を締めます。
7. ジョン・ディア製汎用 SD リチウム・ポリウレアグリースまたは同等のグリースを使用してドライブ・チェーンに注油します。
8. 取り外しと逆の手順で行います。

### ブレーキの調整

**注記：リール・クラッチが外されていることを確認します。**

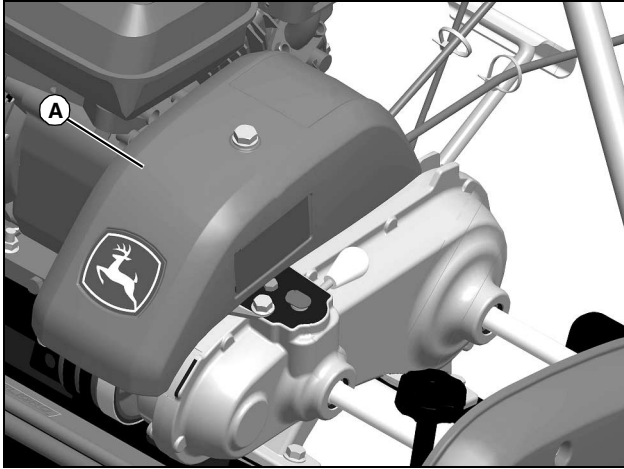


MX46587

1. ハンドルバーでケーブルを固定しているジャム・ナット (A) を緩めます。

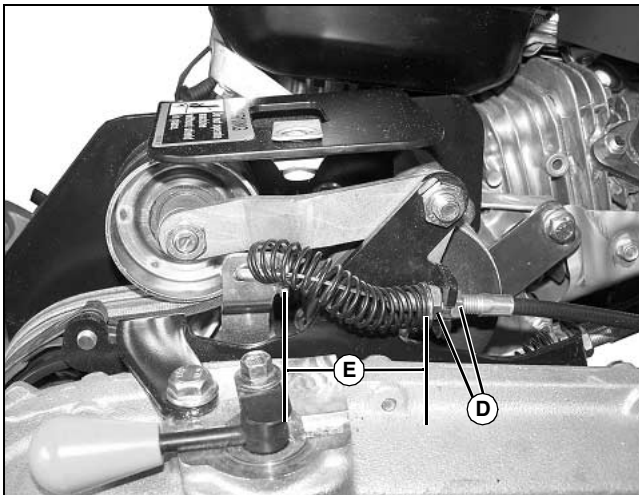
## 整備点検

2. フェルール (B) の間隔を短くします。
3. ジャム・ナットを 11 N 瀕 (96 lb-in.) まで締めます。
4. パーキング・ブレーキの動作を点検します。
5. これ以上の調整が必要な場合には、以下に従って下さい。



MX46473

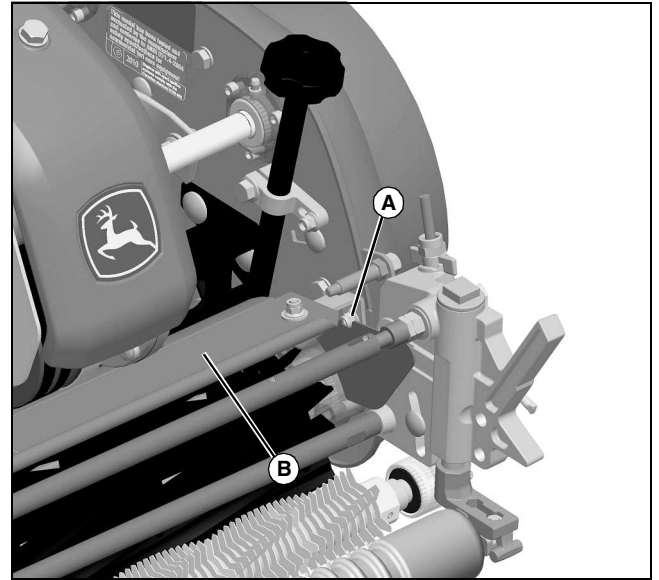
- a. ベルト・カバー (C) を取り外します。



MX46588

- b. ブレーキの近くのブレーキ・ケーブルを固定しているジャム・ナット (D) を緩めます。
- c. フェルール (E) の間隔を短くします。
- d. ジャム・ナット (D) を 11 N 瀕 (96 lb-in.) まで締めます。
- e. パーキング・ブレーキの動作を点検します。
- f. さらに調整が必要な場合は、ブレーキ・バンドを交換します。
- g. ベルトカバーを取り付け、ボルトを締めます。

## リール・シールドの調整



MX46737

1. 両側でナット (A) を締めます。

**注記:** 芝が湿っていたりぬれているときは隙間を広げてシールドを調整し、芝が完全に乾燥しているときはよりすき間を狭めて調整します。

2. シールド (B) を回して、リール刃先端とシールド底との間の間隙を 1.6 ~ 3.2 mm (0.06 ~ 0.12 in.) にします。
3. 両側でナットを締めます。

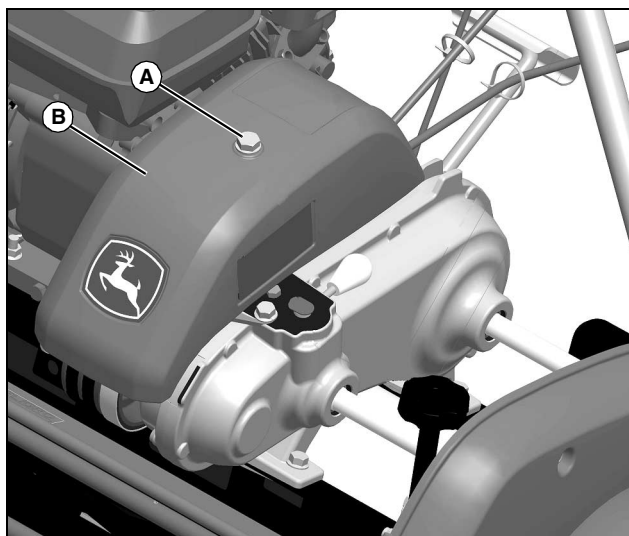
## タイヤの空気圧の点検 (運搬用ホイール)

運搬用ホイールが付いているマシンの場合には、運搬用ホイールタイヤの空気圧を点検します。

空気圧は 125 ~ 140 kPa (18 ~ 20 psi) です。

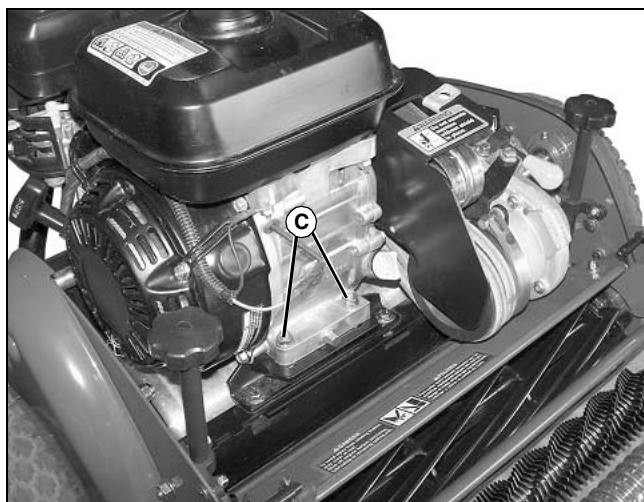
# 整備点検

## ドライブ・ベルトの取り外し



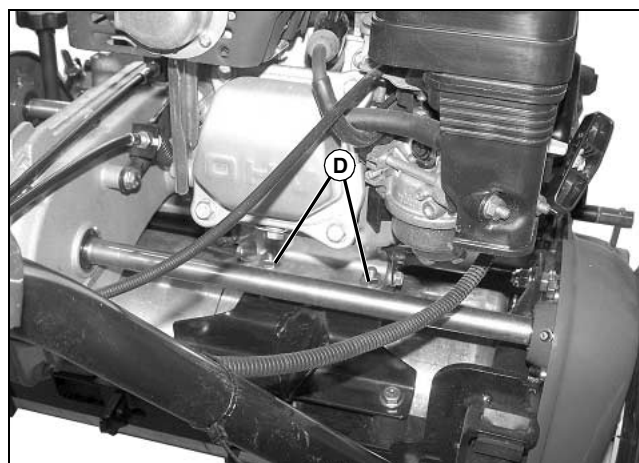
MX46473

1. ボルト (A) とカバー (B) を緩めます。



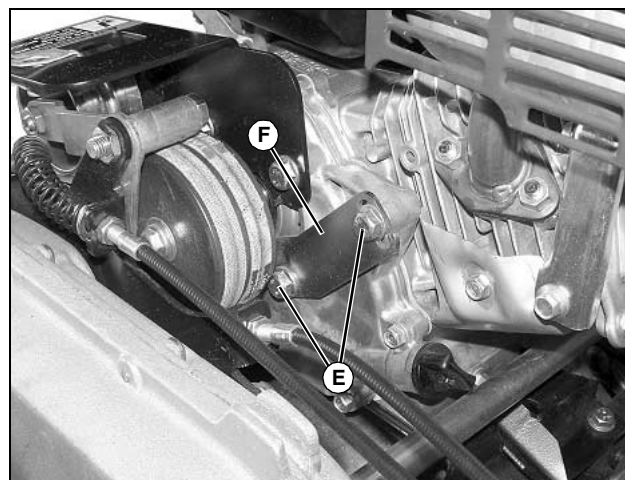
MX46589

2. 2 個のナット (C) とボルト (エンジンの前) を緩めます。



MX46590

3. 2 個のナット (D) とボルト (エンジンの後) を緩めます。



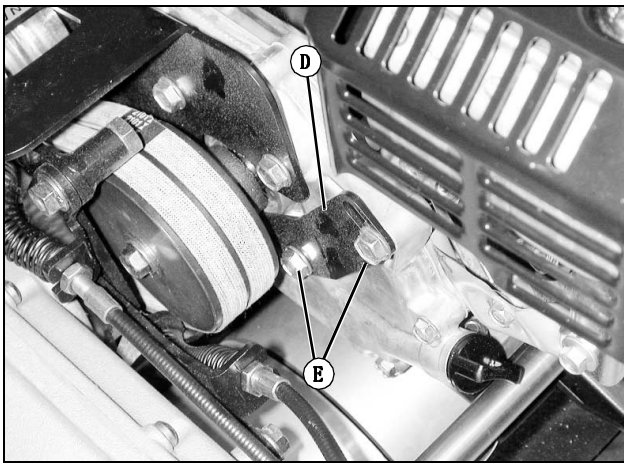
MX46586

4. ベルト・ガイド F を固定している 2 個のボルト (E) を緩めます。
5. エンジンを前に移動してベルトを取り外します。

## ベルトの取り付け

1. エンジン・シープとギアケース・シープ上にベルトを置きます。
2. エンジンを後方に移動して、ベルトを張ります。エンジン・シープと駆動シープは一直線に並べる必要があります。
3. 4 個のエンジン・ナットを締め付けます。
4. ベルト調整を点検します。

## 整備点検



MX11275

5. ベルト・ガイド (D) を 2 個のボルト (E) を使用して調整します。クラッチが入っている場合は、ベルトとガイド間の隙間は約 1mm (0.040-in.) でなければなりません。

**注記：ベルト・ガイドは、クラッチが解放されている場合に動かないようにするのを援護します。**

6. シールドを取り付けます。

### ドライブ・ベルトの張力の点検と調整

適切に調整され、エンジンがオフ、クラッチがニュートラルの場合は、マシンが問題なく動きます。クラッチが作動の場合は、走行ローラーは動きません。

適切に調整され、エンジンがオ、低アイドル、クラッチがニュートラルの場合、マシンは動きません。エンジンがオン、低アイドル、ブレーキがオフ、クラッチが入れられ、ハンドルバーでマシンが固定されている場合は、運搬ホイールは砂利やコンクリートでスピンします。エンジンがオン、ブレーキがオフ、クラッチが入れられている場合は、ユニットが傾斜上に押し上げられます。

### 点検手順

1. マシンを平らな場所に置きます。
2. 「始動 / 停止」のスイッチを停止の位置に移動します。
3. 走行クラッチ・レバーをニュートラルの位置に移動します。
4. マシンを後方に引っ張ります：運搬ホイールとローラーが問題なく動作するか確認します。
  - ・ ローラーと運搬ホイールに問題がない場合は、次の手順に進みます。
  - ・ ローラーと運搬ホイールが回転しない場合は、ベルトの張力を調整してください。
5. クラッチ・レバーを動かして「作動」の位置にします。
6. マシンを後方に引っ張ります：運搬ホイールとローラーは回転しません。

- ・ 運搬ホイールまたはローラーが回転する場合、またはクラッチを入れるのに非常に力が必要な場合は、ベルトの張力を調整します。

- ・ 運搬ホイールとローラーが回転しない場合は、次の手順に進みます。

7. クラッチ・レバーを「解除」の位置に移動します。
8. エンジンをオンにし、低アイドルで作動させます。マシンは前に進みません。前に進む場合は、ベルトの張力を調整します。

9. 低アイドルでエンジンが動作している場合は、ハンドルバーでマシンを保持して動かないようにします。ブレーキを解除してクラッチを入れます。

- ・ 運搬ホイールが砂利やコンクリート上でスピンする場合は、ベルトは適切に調整されています。

- ・ 運搬ホイールが砂利やコンクリート上でスピンしない場合は、ベルトを調整する必要があります。

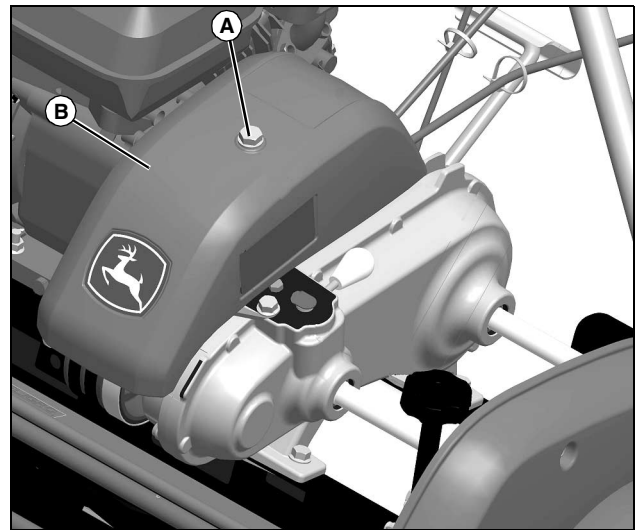
### 調整手順

前の手順の点検手順の結果によっては、粗調整か微調整が必要になります。

- ・ 粗調整にはエンジンの動作が含まれます。マシンが「ニュートラル」で素早く動作する場合、またはタイヤがスピンしない場合は、粗調整が必要になります。

- ・ 微調整にはケーブルの調整が含まれます。「ニュートラル」で低アイドル動作中にマシンの動作が遅くなる場合は微調整が必要です。

1. マシンを平らな場所に置きます。
2. 「始動 / 停止」のスイッチを停止の位置に移動します。
3. 走行クラッチ・レバーをニュートラルの位置に移動します。



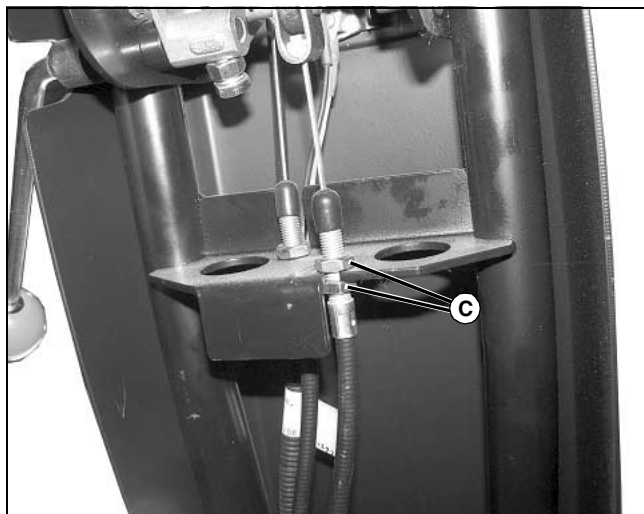
MX46473

4. フランジ・ヘッド・ボルト (A) とドライブ・ベルト・カバー (B) を取り外します。

## 整備点検

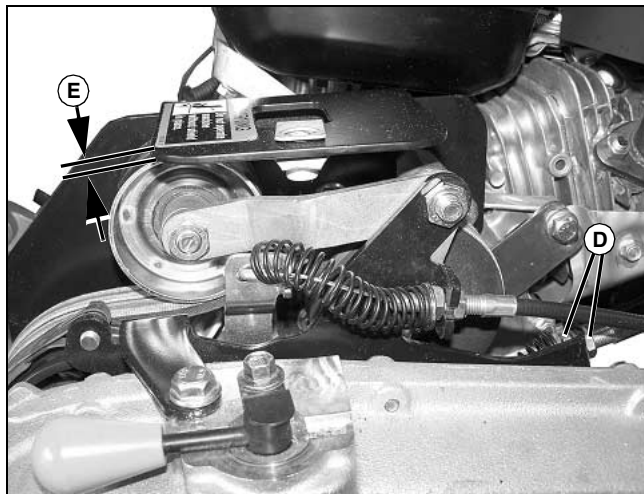
5. 「必要な調整のタイプを決定」に進みます。

### 必要な調整のタイプを決定



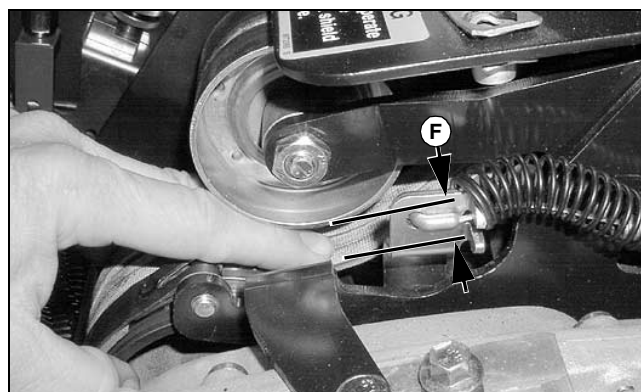
MX46587

1. ジャム・ナット (A) を上部ケーブル・フェルールの中心にします。



MX46588

2. 下部ケーブル・アンカー (D) を調整して、アイドラーとベルト・シールド・サポート間の隙間を 1 - 3 mm (0.039 - 0.118 in.) (E) にします。



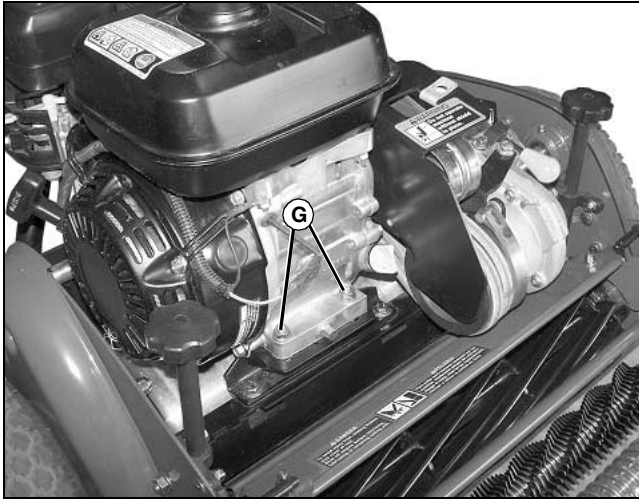
MX14816

3. マシンをオフにして、両方のデバイス・ベルトを縮めます。アイドラーの下とベルトの上の間の距離 (F) は、12 - 18 mm (0.472 - 0.709 in.) です。

- ・ 距離が正しくない場合は、「粗調整手順」に進みます。
- ・ 距離が正しい場合は「微調整手順」に進みます。

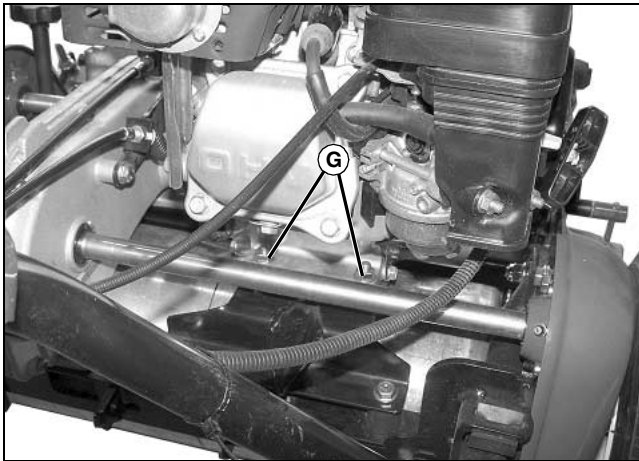
# 整備点検

## 粗調整手順



MX46589

図注：エンジンの正面



MX46590

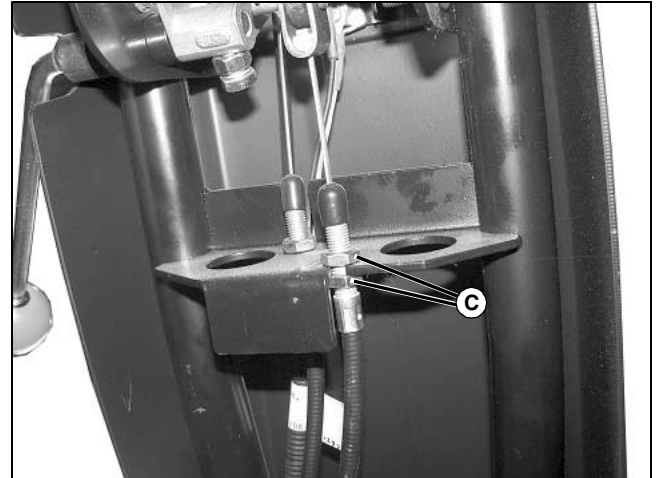
図注：エンジンの背面

1. エンジン取り付けボルト (A) を緩めます。
2. エンジンを前方向（ベルトを緩める）、または後方向（ベルトを締める）にスライドして、ベルトとアイドル間の距離が正しくなるまでベルトの張力を調整します。（「必要な調整のタイプを決定」を参照してください。）

**重要：破損しないよう注意してください。エンジン PTO シープと差動ギアケースは一行に並んでいる必要があります。**

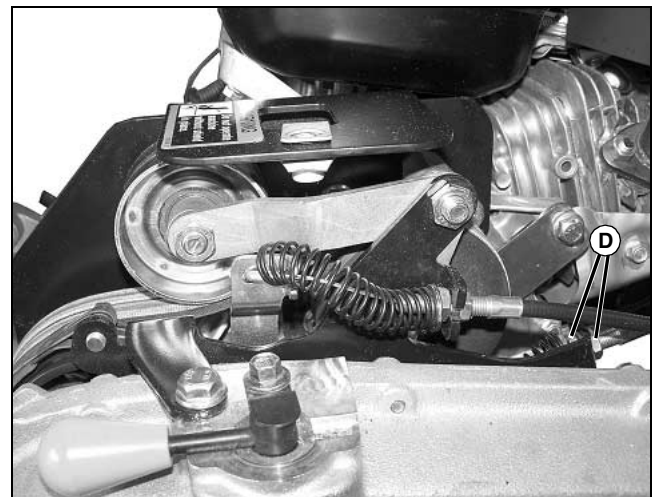
3. 直定義を使用してシープが一行に並んでいることを確認してください。
4. エンジン取り付けボルトを締め付けます。
5. 「微調整手順」に進みます。

## 微調整手順



MX46587

1. 上部ケーブルのジャム・ナット (C) を緩めて、ベルトの張力を変更するためにフェルールの長さを長くしたり（ベルトの張力を弱める）、または短くします（ベルトの張力を強める）。
2. ジャム・ナットを 11 N・m (96 lb-in.) まで締めます。
3. 点検手順を繰り返します。（「点検手順」を参照してください。）
4. 上部ケーブルの調整が十分でない場合は、次の手順に進みます。
5. ジャム・ナットを上部ケーブル・フェールの中心にします。



MX46588

6. ジャム・ナット (D) を緩めます。
7. フェールの長さを長くする（ベルトの張力を弱める）または短く（ベルトの張力を強める）して、ベルト・アイドルの張力を変更します。
8. ジャム・ナットを 11 N・m (96 lb-in.) まで締めます。
9. 点検手順を繰り返して、必要に応じて調整します。（「点検手順」を参照してください。）



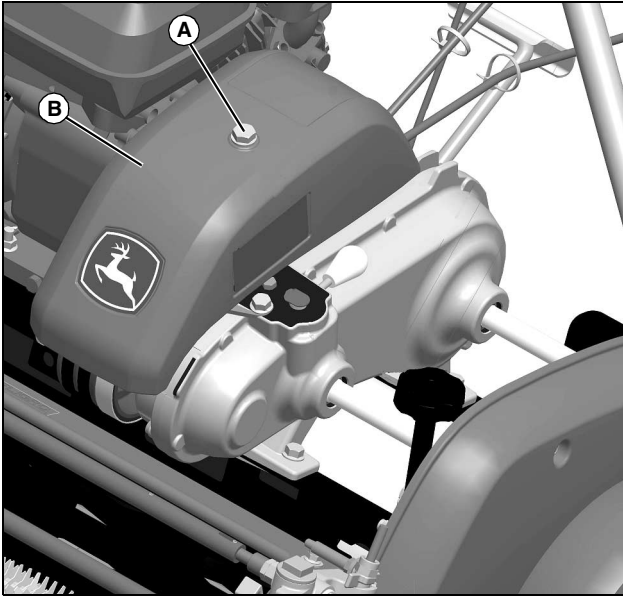
## 整備点検

10. ドライブ・ベルト・カバーを取り付けます。

- ・ クラッチ・レバーを外します。
- ・ ベルト・カバーを取り付けます。

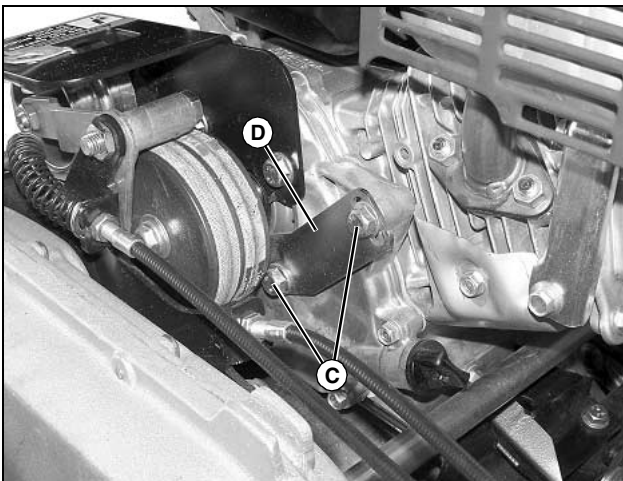
### ベルト・ガイドの調整

1. エンジンを止めた後、全ての可動部品の動作が停止するのを待ちます。



MX46473

2. ボルト (A) とベルト・カバー (B) を取り外します。
3. ドライブ・ベルトの張力を適切に調整します
4. 走行クラッチ・レバーをエンジンの位置方向に移動します。

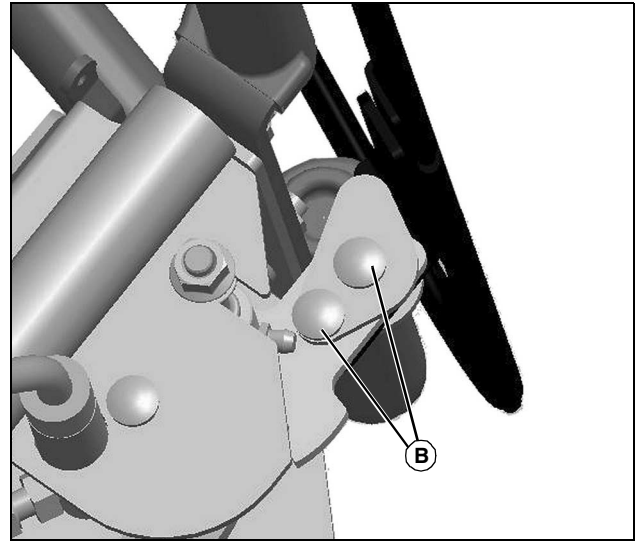


MX46586

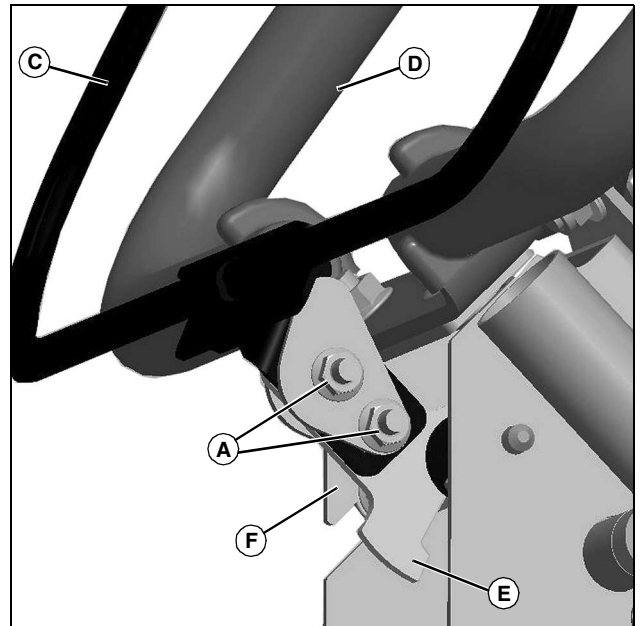
5. ベルト・ガイドの調整：

- ・ 2個のボルト (C) を緩めます。
- ・ ドライブ・ベルトとガイド間の隙間が 1mm (0.040 in.) になるまでベルト・ガイド (D) を調整します。
- ・ ボルト (C) を締めます。

### オペレータ・プレゼンス・ベールの調整



MX51207



MX51208

1. キャリッジ・ボルト (B) から2つのナット (A) を緩めます。
2. ベール (D) をループ・ハンドルバー (C) の位置に合わせます。
3. できるだけかみ合いアーム (E) を上方向に回転します。
4. 2つのナット (A) を締めます。



## 整備点検

---

5. ベールが適切に動作するか点検します。ベールが解除されている場合は、かみ合いアーム (E) はクラッチ・レバーの結合部 (F) と完全に噛み合っている必要があります。

# 故障診断

## トラブルシューティング・チャート

このチャートに記載されていない問題が発生した場合は、ジョン・ディア代理店へご連絡下さい。

このチャート内の原因／点検事項を点検した後にも、問題が解決されない場合、ジョン・ディア代理店へご連絡下さい。

## エンジン

問題または症状	点検事項
エンジンが始動しない、または始動しづらい	始動 / オフ スイッチをオフ位置にします。 燃料シャットオフ・バルブが閉じている（オフ）。 不適切な燃料 / 燃料レベル。 燃料が古くなっている。 燃料スクリーンが詰まっている。 空気取り入れフィルタが詰まっている。 スパーク・プラグ・ワイヤの緩み、または外れ。 スパーク・プラグのギャップが適切でない。 チョークが機能していない・ジョン・ディアの代理店にお問い合わせください。
エンジンのアイドリングが高いまま下がらない	キャブレターの問題 - ジョン・ディアの代理店にお問い合わせください。
エンジンの回転が不安定	燃料シャットオフ・バルブが部分的に塞がっている。 燃料沈殿物用の受け皿が詰まっている。 空気取り入れフィルタが詰まっている。 燃料タンクのキャップ通気口が汚れている。 古いまたは不適切な燃料 / 燃料レベル。 スパーク・プラグのギャップが適切でない。 スパーク・プラグを交換します。 チョークが機能していない・ジョン・ディアの代理店にお問い合わせください。 キャブレターの問題 - ジョン・ディアの代理店にお問い合わせください。
エンジンがオーバーヒートする	冷却フィンをきれいにします。 オイルの量が少ない。 空気取り入れフィルタが詰まっている。
エンジンがノッキングする。	負荷を減らします。 燃料が悪い。新鮮な燃料をタンクに満たし、オクタン価を正します。 エンジンを高速アイドルで運転します。 オイルの量が少ない。

## 故障診断

問題または症状	点検事項
エンジンにパワーがない	負荷を減らします。 空気取り入れフィルタが詰まっている。 燃料沈殿物用の受け皿が詰まっている。 タンクを空にして、適切な燃料を入れます。 冷却ファンをきれいにして、オーバーヒートを防ぎます。 スパーク・プラグ スパーク・アRESTを清掃します。 スロット・レバーを動かします。
エンジンが多量のオイルを使う	オイルの漏れを直します。 不適切なエンジン・オイル。 空気取り入れフィルタが詰まっている。 リングが磨耗している。
エンジンがマフラーからバックファイアを起こす	キャブレータの問題 - ジョン・ディアの代理店にお問い合わせください。

## 芝刈り機

問題または症状	点検事項
刈りの質が悪い	ベッド・ナイフとリール間の調整が不適切。 リールまたはベッド・ナイフの刃の切れ味が悪い。 草の背丈が高すぎます。
刈り取りが均一ではありません	草の背丈が高すぎます。草の種類と芝目を確認してください。 刈り高が適切に設定されていません。 前部ローラーやドライブ・ローラーがベッド・ナイフと平行になっていません。
芝刈り機が動作しません	ドライブ・ベルトの調整が正しくないか、壊れています。 ローラー・チェーンが壊れています。
リールが噛み合っていない	ローラー・チェーンが壊れています。 ケーブルを調整してください。
グリーンに残っている草をカットします	草捕集器の取り付けが正しくありません。 リール・シールド・クリップがベッド・ナイフ・サポートに固定されていません。 シールドを調整してください。
マーキング旋回での草をマークする	リミット・チェーンでの過剰な遊び。 不正な後部ローラー・キャップ。

# 保管

## 安全な保管



注意：ケガの防止に留意して下さい。燃料の蒸発ガスは爆発性で可燃性です。エンジンの排気ガスには一酸化炭素が含まれており、重病や死亡の原因になることがあります。

- ・ 機械を収納場所から出し入れする際は、エンジンの稼働を必要最小限に抑えて下さい。
- ・ 機械を冷却しないで収納した場合、エンジンやマフラーの周りから堆積物を除去しない場合、燃えやすいものの側に収納した場合などに、機会や骨組みから出火する可能性があります。
- ・ 気化したガソリンに引火する恐れのある火気、スパークが発生し得る屋内に、燃料が入った状態の機械を保管してはいけません。
- ・ 屋内に機械を保管する前にはエンジンを冷まして下さい。

## 機械を保管するための準備

1. 摩耗または破損しているパーツを修理します。必要に応じて新しいパーツに交換します。緩みのある金具は適切に締めます。
2. 塗装面に傷やペンキの欠けがある場合、さびを防ぐために補修します。
3. 機械に付着した芝やゴミを取り除きます。
4. 機械を低圧水で洗い、金属とプラスチックの面にワックスを塗ります。
5. 機械を5分間作動させてベルトやプーリーを乾かします。
6. さびを防ぐため、ピボットおよび磨耗個所にエンジン・オイルを薄く塗ります。
7. グリースを必要な個所全てに塗ります。
8. タイヤの空気圧を点検します。

## 燃料とエンジンの保管準備

### 安定剤またはコンディショナーでの燃料の使用法

1. 換気の良い場所に安全に機械を置きます。(「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。)

**重要：破損しないよう注意してください。燃料が劣化すると、キャブレターや燃料噴射装置の部品に樹脂状物質が生じて詰まりを起こし、エンジン性能が低下することがあります。**

- ・ 給油の前に、新しい燃料に燃料コンディショナーまたは安定剤を加えて下さい。

**注記：燃料タンクに安定剤を添加した燃料を充填すると、燃料タンク内の空気量を減らすことができ、保管時の燃料の劣化を抑えるのに役立ちます。**

2. 新しい燃料と安定剤は別の容器で混ぜます。安定剤の取扱説明書の混合手順に従って下さい。
3. 安定剤を添加した燃料を燃料タンクに満たします。
4. 数分間エンジンを稼働して、燃料がキャブレター全体に循環して混じるようにします。
5. 作動 / 停止スイッチを「停止」(STOP)の位置まで回します。

**安定剤やコンディショナーを炭化していない添加していない燃料の使用法。**

1. 換気の良い場所に安全に機械を置きます。(「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。)

**重要：破損しないよう注意してください。燃料が古くなると固化してキャブレターを詰まらせ、エンジン性能を低下させる原因となり得ます。**

- ・ この機械では、燃料の安定剤やコンディショナーを使用することをお勧めします。

**注記：燃料補給の際は、そのシーズンで最後に稼働させるのがいつになるかを考慮し、タンクになるべく燃料が残らないよう、必要量のみ充填するようにします。**

2. エンジンのスイッチを入れ、燃料が切れるまで作動させます。
3. 作動 / 停止スイッチを「停止 (STOP)」の位置まで回します。

### エンジン：

エンジンの保管手順は、車両を使用しない期間が60日を超える場合に実行します。

1. エンジン・オイルはエンジンが暖かいときに交換して下さい。
2. 必要に応じてエア・フィルタを整備します。
3. ガソリン・エンジンでは：
  - ・ スパーク・プラグを取り外します。汚れのないエンジン・オイル 30 mL (1 oz) をシリンダに入れます。
  - ・ スパーク・プラグを取り付けますが、この際スパーク・プラグのワイヤは接続しないで下さい。

# 保管

---

・ オイルを循環させるため、エンジンを5～6回クラックします。

4. エンジンとエンジン・コンパートメントをきれいにします。
5. 燃料シャットオフ・バルブ（装着されている場合）を閉じます。

**重要：破損しないよう注意してください。日光に長時間あるとフードの表面が損傷する場合があります。機械は屋内に格納するか、屋外に保管する場合はカバーをご使用下さい。**

6. 車両の保管には、車両を適切に保護できる乾燥した場所を選んで下さい。車両を屋外で保管する場合、防水カバーで覆って下さい。

## 機械を保管場所から出す

1. タイヤの空気圧を点検します。
2. エンジン・オイル・レベルを点検します。
3. スパーク・プラグのギャップを点検します。プラグを取り付け、指定のトルクまで締めます。
4. グリースを必要な箇所すべてに塗ります。
5. 燃料シャットオフ・バルブが機械に装備されている場合、このバルブを開きます。
6. シールドとガードまたはデフレクタがみな正しい位置にあることを確認します。

# 仕様

## エンジン

エンジン型番	Honda, GX 120
エンジン・タイプ	4サイクル、1気筒、25度シリンダ傾斜
排気量	118 cc (7.2 cu in.)
アウトプット・シャフトの回転方向	シャフト側から見て反時計回り

## 調整仕様

スパーク・プラグのギャップ	0.7 ~ 0.8mm (0.028 ~ 0.031 in.)
イグニッション・コイルのエア・ギャップ	0.4 ± 0.2 mm (0.016 ± 0.008 in.)
吸気弁クリアランス (冷却時)	0.15 ± 0.02 mm (0.006 ± 0.001 in.)
排気弁クリアランス (冷却時)	0.20 ± 0.02 mm (0.008 ± 0.001 in.)

## 燃料系統

### 燃料の種類 (推奨):

	オクタン価 87 のレギュラー無鉛ガソリン
	エタノール混合ガソリン (10% 混合まで)

燃料供給 . . . . . キャブレータ

## 容量

エンジン・オイル	0.6 L (0.63 qt)
燃料タンク	2.5 L (2.50 l)
差動ドライブ容量	0.14 L (0.3 pt)

## 走行速度

### 走行装置 (最大前進速度)

ローラー (後部)	0 ~ 5.5 Km/h (0 ~ 3.4 mph)
運搬ホイール	0 ~ 7.2 km/h (0 ~ 4.5 mph)

## タイヤの寸法

運搬タイヤ	4.1-6 (2 pr.) (チューブレス)
圧力 (標準圧空)	125-140 kPa (18-20 psi)

# 仕様

## 寸法

高さ（運送用車輪装着時）	119 cm (47 in.)
長さ（運送用車輪装着時）	94 mm (37 in.)
幅（運送用車輪装着時）	
180SL	84.5 mm (33.3 in.)
220SL	94.6 mm (37.3 in.)
260SL	104.8 mm (41.3 in.)
重量（草捕集器込み、運送用車輪とブラシ/ドライブを含まない）	
180SL	92.5 kg (204 lb)
220SL	99.3 kg (219 lb)
260SL	107.5 kg (237 lb)

## カッティング・ユニット

### Greens Tender Conditioner（オプション）

18 inch	60 mm (2-3/8 in.) 直径、61 刃数
55.88 cm	60 mm (2-3/8 in.) 直径、75 刃数
26 inch	60 mm (2-3/8 in.) 直径、89 刃数
回転式ブラシ（オプション）	ギア駆動型、反対方向に回転 60 mm (2-3/8 in.) 径
垂直カッター刃の材質	超硬カーボン・スチール星型 0.6 mm (1/32 in.)
ギア・ドライブ（オプション）	リール回転、動力ブラシ、またはカッターのリール・シャフトの反対方向から駆動されるギア

### クリップ頻度

11 刃	4.62 mm (0.182 in.)
9 刃	5.64 mm (0.222 in.)
7 刃	7.26 mm (0.286 in.)

### 刈り高（最小）

標準ベッド・ナイフ	3.2 mm (0.126 in.)
オプションのトーナメント・ベッド・ナイフ	2.8 mm (0.110 in.)
オプションの低カット・ベッド・ナイフ	2.0 mm (0.079 in.)

### 刈り幅

180SL	457 mm (18 in.)
220SL	559 mm (22 in.)
260SL	660 mm (26 in.)

トラクション・ドラム . . . . . デュアル・アルミ・トラクション

### クラッチ

運搬	ベルト張力
カッター	ジョータイプ・クラッチ（オン/オフ）

## 仕様

---

---

ブラシ/GTC . . . . .	ジョータイプ・クラッチ (オン/オフ)
リール	
直径 . . . . .	127 mm (5 in.)
標準刃数 . . . . .	180SL (刃数 11) 220SL (刃数 11) 260SL (刃数 11 または 7)
材質 . . . . .	超硬合金

### その他

パーキング・ブレーキ . . . . . バンドタイプのブレーキ、レバーの動作

### 推奨される潤滑油

エンジン・オイル . . . . .	John Deere Plus <sup>®</sup> 4™
ギア・ケースのオイル . . . . .	John Deere Hy-Gard™
グリース . . . . .	整備点検の注油セクションを参照してください

(仕様および設計は予告無しに変更されることがありますので、予めご了承下さい。)



# 索引

## G

GTC、使い方	17
GTC、注油	26
GTC、調整	18
Greens Tender Conditioner (GTC)、調整	18

## H

HY-GARD から BIO HY-GARD への転換 HY-GARD から BIO HY-GARD へのてんかん	25
---	----

スロットル・レバ	31
ハンドルバ	8
シュ	28
ナイフ・シュ	28
受け皿、燃料沈殿物の掃除	33
エンジン・オイル	30
エンジンと燃料の保管、準備	48
オイル、エンジン・オイルの交換	34
オイル、エンジン	30
回転式ブラシ、使い方	17
回転式ブラシ、注油	26
回転式ブラシ、調整	18
カット長ブラケット、注油	29
刈り高、調整	14
潤滑油の仕様	52
スロットルの結合部、調整	32
寸法、マシン	51
タイヤの寸法	50
ブラシ、回転式 - 注油	26
ブラシ、回転式の使い方	17
ブラシ、回転の調整	18
毎日の操作点検リスト	8
結合部、スロットルの調整	32
走行速度の仕様	50
操作点検リスト、毎日	8
燃料沈殿物用受け皿、掃除	33
燃料の保管	48
レバ	31, 32
スロットル・レバ	32
保管、機械を保管場所から出す	49
保管、燃料とエンジンの保管準備	48
キャブレ	36
オペレ	29, 8
インプット・ドライブ、潤滑 いんぷつとどらいぶ、じゅんかつ	26
エンジン、停止 えんじん、ていし	10
エンジン・オイル・レベル、点検	34
エンジン・オイル、交換	34
エンジンの仕様 えんじんのしょう	50
エンジンの保証およびメンテナンスに関する楓	30
オイル・レベル、エンジン・オイル量の点検	34
オペレータ・プレゼンス・ペール、調整おぺれーたぶれぜんすべーる、ちょうせい	44

カッティング・ユニット、整備点検の前にかつていんぐゆにつつと、せいびてんけんのまえに	13
ブレ	11, 38
パ	11
プラグ、スパ	35
スパ	4, 35
エンジンのブレ	10
パ	22
リンケ	28
グリ	25
ギア・ケ	27
パ	22
トラブルシュ	46
チャ	46
ドライブ、インプットの潤滑 どらいぶ、いんぷつとのじゅんかつ	26
ドライブ・ベルト、取り外し どらいぶべると、とりはずし	40
ドライブ・ベルト、調整 どらいぶべると、ちょうせい	41
エア・クリ	32
ナイフ、ベッドの研磨 ないふ、べつどのけんま	37
バックラッピング ばつくらっぴんぐ	37
プラスチック面および塗装面、損傷防止	8
ペール、オペレータ・プレゼンスの調整ペーる、おぺれーたぶれぜんすのちょうせい	44
ベッド・ナイフ、研磨 べつどないふ、けんま	37
ベッド・ナイフ、取り外し べつどないふ、とりはずし	37
ベッド・ナイフ、取り付け べつどないふ、とりつけ	37
ベルト、ドライブの取り外し べると、どらいぶのとりはずし	40
ベルト、ドライブの調整 べると、どらいぶのちょうせい	41
ベルト、取り付け べると、とりつけ	40
ベルト・ガイド、調整 べるとがいど、ちょうせい	44
前部ロ	27
ドライブ・ロ	15, 27
ロ	38
トレ	11
ホイ	39
リ	26
、リ	9
リ	38
ドライブ・コントロ	28
タイヤの空気圧 (運搬用ホイ	39
リ	26
クラッチ・ハンドル、リ	9
ベッド・ナイフとり	13
ドライブ・ロ	27
前部ロ	27
チェ	38
グリ	17
安全な保管	48
安全システム、テスト	10
安全システムのテスト	10

# 索引

---

運搬用車輪、取り外し うんばんようしゃりん、とりはずし	9
液体類の容量	50
パ	22
識別番号 しきべつばんごう	-1
証明書	2
整備点検用文献	22
操作制御機器	7
燃料、適正燃料の使用	30
燃料の安全な取り扱い	6
排気ガス規制システム証明書ラベル	2
排気ガス適合期間	2
文献、整備点検用	22
保管、機械保管のための準備	48
保証およびメンテナンスに関する楓せ、	30
油、トランスミッション・オイルおよび作動油	25
容量仕様	50

## ジョン・ディアの品質



ジョン・ディア社製品の購入は、単なる購買を超えた、品質への投資を意味します。この品質は弊社の機器に始まり、ジョン・ディアの代理店が扱うパーツと整備点検サポートにも及んでいます。このサポートは、製品をお買い上げいただいた皆様の満足度を保証する上での要件となるものです。

疑問点がおありの場合、また万一問題が生じた場合の弊社の対応プロセスが本項に率先的に導入されているのは、まさにこのサポートの一環です。プロセスには次の3つのステップがあります。

### ステップ1

#### オペレーターズ・マニュアルを参照する

- A. オペレーターズ・マニュアルには機器の安全で正しい操作についての多くの図と詳細情報が含まれています。
- B. トラブルシューティング手順、仕様情報が記載されています。
- C. パーツ・カタログ、整備点検、技術マニュアルに関する注文情報をご参照いただけます。
- D. 疑問点がオペレーターズ・マニュアルで解消されなかった場合は、ステップ2に進んで下さい。

### ステップ2

#### 最寄の代理店に問い合わせる

- A. 最寄りのジョン・ディア代理店は、ご質問への対応と解決、およびパーツや整備点検のご要請に関する責任、権限、能力があります。
- B. まず最初に、パーツおよび整備点検に関する訓練を受けた代理店担当者に、ご質問あるいは問題をお話してください。
- C. パーツや整備点検の担当要員がお客様の問題を解決できなかった場合は、代理店のマネージャーまたはオーナーにお問い合わせ下さい。
- D. お客様の質問または問題が代理店で解決できなかった場合は、ステップ3に進んで下さい。

### ステップ3

#### ジョン・ディア顧客コミュニケーション・センターに連絡する

- A. 懸案事項を取り扱う上では最寄のジョン・ディア代理店が最も効率の高い情報源ですが、オペレーターズ・マニュアルを点検しても最寄の代理店に問い合わせても問題を解決できない場合には、お客様連絡センターにご連絡ください。
- B. 迅速で効果的なサービスをご提供できますよう、以下をご確認の上でお問い合わせ下さい。
  - 先にご連絡された代理店名。
  - お客様の機器のモデル番号。
  - 機器の稼動時間数（該当する場合）。
  - 本マニュアルの表紙に続くページでご記入いただいた、機器のシリアル・ナンバー。
  - 問題が付属装置に関する場合は、ご使用の付属装置の識別（ID）番号。
- C. 上記をご確認の上、1-800-537-8233（米国およびカナダ）までご連絡ください。当部門の顧問が、先にお問い合わせいただいた代理店の担当者と共に懸案事項の調査に当たります。米国およびカナダ以外にお住まいの場合は、次のウェブサイトからご連絡ください：[www.deere.com/wps/dcom/en\\_US/regional\\_home.page](http://www.deere.com/wps/dcom/en_US/regional_home.page)。

# 整備点検記録

## 整備点検日付の記録

オイル交換	オイル・フィルタ交換 (搭載されている場合)	機械の潤滑	エア・クリーナ・エレメントの点検/清掃	燃料フィルタの交換